



CIMC Express

初版：2011年4月21日
最終更新日：2012年3月1日

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意 (www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。

本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。

あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

Cisco Integrated Management Controller Express (Cisco CIMC-E) は、Cisco SRE Internal Service Module-Services Ready Engine (Cisco SRE ISM) および Cisco SRE Service Module-Services Ready Engine (Cisco SRE SM) の UCS-C シリーズ ラックマウント サーバ製品ラインと同じ基本的な管理機能を提供します。

内容

- 「CIMC-E の概要」 (P.2)
- 「Embedded Service Engine の概要」 (P.7)
- 「Embedded Service Engine への CIMC-E のインストール」 (P.10)
- 「Embedded Service Engine の管理」 (P.22)
- 「サーバの管理」 (P.27)
- 「サーバのプロパティの表示」 (P.31)

- 「CIMC-E 情報の表示」 (P.32)
- 「リモート コンソールの管理」 (P.32)
- 「ユーザ アカウントの管理」 (P.34)
- 「ネットワーク関連の設定」 (P.40)
- 「コミュニケーション サービスの設定」 (P.43)
- 「証明書の管理」 (P.45)
- 「プラットフォーム イベント フィルタの設定」 (P.48)
- 「CIMC-E ファームウェア管理」 (P.50)
- 「ログの表示」 (P.51)
- 「サーバユーティリティ」 (P.54)
- 「CIMC-E コマンド リファレンス」 (P.56)
- 「Embedded Service Engine コマンド リファレンス」 (P.126)

CIMC-E の概要

Cisco Integrated Management Controller Express (CIMC-E) は、Cisco SRE SM 用の管理サービスです。ここでは、次の内容について説明します。

- 「管理インターフェイス」 (P.2)
- 「CIMC-E で実行可能なタスク」 (P.2)
- 「オペレーティング システムやアプリケーションのプロビジョニングや管理はできない」 (P.3)
- 「CIMC-E GUI」 (P.3)

管理インターフェイス

Web ベースの GUI または SSH ベースの CLI を使用して、サーバにアクセスし、サーバを設定、管理、モニタできます。ほとんどすべてのタスクは、これらのインターフェイスのいずれでも実行できます。また、一方のインターフェイスで実行されたタスクの結果は、もう一方のインターフェイスにも表示されます。ただし、次の操作はできません。

- CIMC-E GUI を使用して CIMC-E CLI を呼び出す
- CIMC-E CLI で呼び出したコマンドを CIMC-E GUI に表示する
- CIMC-E GUI から CIMC-E CLI の出力を生成する

CIMC-E で実行可能なタスク

CIMC-E を使用すると次のサーバ管理タスクを実行できます。

- モジュールの電源のオン、電源のオフ、電源再投入、リセット、およびシャットダウンを行う
- サーバおよびモジュールのプロパティを表示する
- リモート プレゼンスを管理する
- ローカル ユーザ アカウントを作成して管理し、リモート ユーザの認証をイネーブルにする

- IPv4、VLAN、ネットワーク セキュリティなど、ネットワーク関連の設定を行う
- HTTP、SSH などのコミュニケーション サービスを設定する
- 証明書を管理する
- プラットフォーム イベント フィルタを設定する
- CIMC-E ファームウェアを更新する
- サーバステータスをモニタする

オペレーティング システムやアプリケーションのプロビジョニングや管理はできない

CIMC-E はサーバのプロビジョニングを行うため、サーバのオペレーティング システムの下に存在します。したがって、サーバでオペレーティング システムやアプリケーションのプロビジョニングや管理を行うためにこれを使用することはできません。たとえば、次の操作を実行することはできません。

- Windows や Linux などの OS の展開
- OS やアプリケーションなどのソフトウェアに対するパッチの展開
- アンチウイルス ソフトウェア、モニタリング エージェント、バックアップ クライアントなどのベース ソフトウェア コンポーネントのインストール
- データベース、アプリケーション サーバ ソフトウェア、Web サーバなどのソフトウェア アプリケーションのインストール
- Oracle データベースの再起動、プリンタ キューの再起動、CIMC-E 以外のユーザ アカウントの処理などのオペレータ処理の実行
- SAN や NAS ストレージ上の外部ストレージの設定または管理

CIMC-E GUI

CIMC-E GUI は、Cisco SRE SM の Web ベースの管理インターフェイスです。CIMC-E GUI を起動して、次の最小要件を満たしている任意のリモート ホストからサーバを管理できます。

- Java 1.4 以降。
- Internet Explorer 7.0 を推奨します。

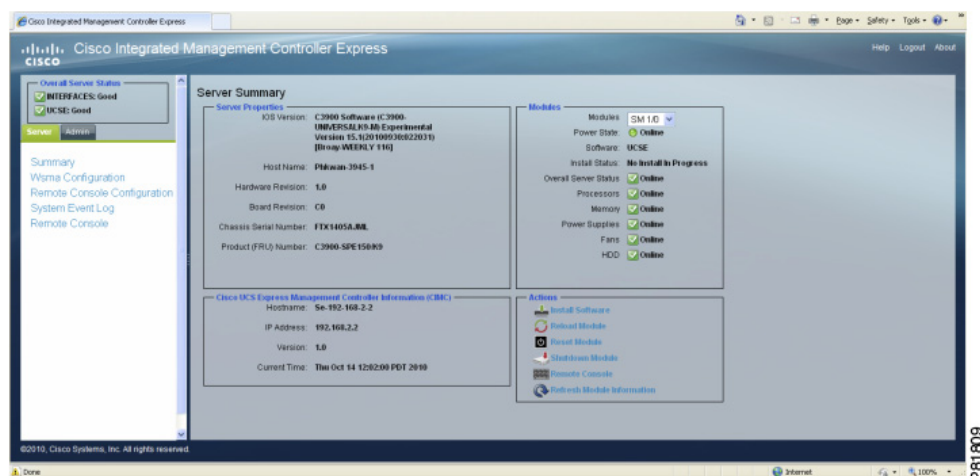
CIMC-E GUI については、次の項を参照してください。

- 「[CIMC-E 要素](#)」(P.3)
- 「[CIMC-E へのログイン](#)」(P.7)
- 「[CIMC-E からのログアウト](#)」(P.7)

CIMC-E 要素

図 1 に CIMC-E GUI を示します。

図 1 Cisco Integrated Management Controller Express の GUI



[Navigation] ペイン

[Navigation] ペインは、CIMC-E GUI の左側に表示されます。[Navigation] ペインで [Server] タブまたは [Admin] タブのリンクをクリックすると、CIMC-E GUI の右側の [Work] ペインに選択したページが表示されます。

表 1 で、[Navigation] ペインの要素について説明します。

表 1 [Navigation] ペインの要素

要素名	説明
[Overall Server Status] 領域	[Overall Server Status] 領域は、[Server] タブおよび [Admin] タブの上にあります。

表 1 [Navigation] ペインの要素 (続き)

要素名	説明
[Server] タブ	<p>[Server] タブは、[Navigation] ペインにあります。このタブには次のページへのリンクが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Summary • CIMC-E Configuration • Remote Console Configuration • System Event Log • Remote Console
[Admin] タブ	<p>[Admin] タブは、[Navigation] ペインにあります。このタブには次のページへのリンクが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Users Management • Network • Communication Services • Certificate Management • CIMC-E Log • Event Management • Firmware Management • Tech Support

[Work] ペイン

[Work] ペインは、UI の右側に表示されます。[Work] ペインには、[Server] タブまたは [Admin] タブでクリックしたリンクに応じて異なるページが表示されます。

表 2 で、[Work] ペインの要素について説明します。

表 2 [Work] ペインの要素

ページまたは要素名	説明
Summary	このページには、サーバのプロパティ、モジュールのステータス、CIMC-E の情報が表示されます。また、モジュールのリロードやリセットなどの処理も実行できます。
CIMC-E Configuration	このページでは、ユーザ名、パスワード、URL を変更できます。
Remote Console Configuration	このページでは、リモート コンソールの IP アドレスおよびポートを変更できます。
System Event Log	このページでは、システム イベント ログを表示できます。
Remote Console	このページでは、CIMC-E コマンドを入力できます。

表 2 [Work] ペインの要素 (続き)

ページまたは要素名	説明
User Management	このページには 3 つのタブがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Local Users] : このタブでは、ローカルユーザを表示します。 • [Sessions] : このタブでは、現在のユーザセッションを表示します。 • [Create Users] : このタブでは、ユーザを作成します。
Network	このページには 2 つのタブがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Network Settings] : このタブでは、ネットワークプロパティを設定します。 • [VLAN Settings] : このタブでは、VLAN のプロパティを設定します。
Communications Services	このページには 3 つの領域があります。 <ul style="list-style-type: none"> • [HTTP Properties] : この領域では、HTTP のプロパティを設定します。 • [SSH Properties] : この領域では、SSH のプロパティを設定します。 • [Client Information] : この領域には、クライアントの情報が表示されます。 • [HTTP Operation] : この領域では、HTTP 動作を再起動します。
Certificate Management	このページには 2 つの領域があります。 <ul style="list-style-type: none"> • [Actions] : この領域では、証明書を生成してアップロードします。 • [Current Certificate] : この領域には、サーバの現在の証明書が表示されます。
CIMC-E Log	このページには、CIMC-E のログを表示できます。
Event Management	このページでは、プラットフォーム イベントフィルタを設定できます。
Firmware Upgrade	このページでは、クライアントブラウザまたは TFTP サーバから CIMC-E ファームウェアをインストールできます。
Tech Support	このページには 2 つのタブがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • [View] : この領域には、テクニカルサポートデータを表示できます。 • [Download] : この領域では、リモートサーバにテクニカルサポートデータをダウンロードできます。

CIMC-E へのログイン

CIMC-E にログインするには、次の手順に従います。

手順

-
- ステップ 1** Web ブラウザで、CIMC-E の Web リンクを入力または選択します。たとえば、Embedded Service Engine の IP アドレスが 10.1.1.63 255.255.255.0 の場合は、Web ブラウザで `http://10.1.1.63` にログインします。
- ステップ 2** セキュリティ ダイアログボックスが表示された場合は、次の操作を実行します。
- (任意) チェックボックスをオンにして、シスコからのすべてのコンテンツを受け入れます。
 - [Yes] をクリックして証明書を受け入れ、続行します。
- ステップ 3** ログイン ウィンドウで、ユーザ名とパスワードを入力します。
デフォルトのユーザ名は `admin`、デフォルトのパスワードは `password` です。
- ステップ 4** [Log In] をクリックします。
-

CIMC-E からのログアウト

CIMC-E からログアウトするには、次の手順に従います。

手順

-
- ステップ 1** CIMC-E の右上で、[Log Out] をクリックします。
ログアウトすると、CIMC-E のログイン ページに戻ります。
- ステップ 2** (任意) 再度ログインするか、Web ブラウザを閉じます。
-

Embedded Service Engine の概要

Cisco Integrated Services Routers Generation 2 (Cisco ISRs G2) では、マザーボードにデュアル コア CPU を搭載しています。最初のコアは、Cisco Integrated Services Router (ISR) と同様に、Cisco IOS ソフトウェアを実行します。2 番目のコア、*Embedded Service Engine* では、Linux ベースのアプリケーションを実行できます。

Embedded Service Engine は、次の Cisco ISR G2 プラットフォームでサポートされています。

- Cisco 2911
- Cisco 2921
- Cisco 2951
- Cisco 3925
- Cisco 3945

Embedded Service Engine を Cisco ISR G2 で設定する場合は、Embedded Service Engine のアプリケーションの実行に必要なインフラストラクチャが、Cisco IOS ソフトウェアと Embedded Service Engine の間でパーティション化されます。

組み込みアプリケーションをイネーブルにする場合には、Embedded Service Engine によって、2 番目のコンパクトフラッシュ スロットにコンパクトフラッシュカードが必要になります。詳細については、表 3 (P.8) を参照してください。



(注) CIMC-E は、Cisco IOS Release 15.1(4)M の Embedded Service Engine でサポートされる唯一のアプリケーションです。

CIMC-E は、ISM-SRE-300-K9 ではサポートされません。



(注) Cisco SRE-V は、ISM-SRE-300-K9 ではサポートされません。

前提条件

コンパクトフラッシュカードの要件

Cisco IOS で CIMC-E をインストールおよび実行するには、2 つのコンパクトフラッシュカードが必要です。

スロット CF0 のコンパクトフラッシュカードは Cisco IOS の実行に使用され、スロット CF1 のコンパクトフラッシュカードは Embedded Service Engine に使用されます。Cisco IOS では、スロット CF0 は「flash0:」と表示され、スロット CF1 は「flash1:」と表示されます。

表 3 コンパクトフラッシュカードの割り当て

コンパクトフラッシュカードスロット	目的	コンパクトフラッシュサイズ (MB)
CF0	Cisco IOS の実行。	256 MB 以上
CF1	Embedded Service Engine での CIMC-E の実行。	512 MB 以上

ルータメモリの要件

Embedded Service Engine の各ルータプラットフォームで必要な最小メモリを、表 4 に示します。

表 4 Embedded Service Engine の最小メモリ要件

1 GB	1.5 GB	2 GB
Cisco 2911	Cisco 2951	Cisco 3925
Cisco 2921	—	Cisco 3945

すべてのプラットフォームで、最大メモリとは、そのプラットフォームでサポートされている最大メモリです。

CIMC-E 製品ファイル

表 5 に、cimce-k9.vsem.1.0.2.tar.gz に含まれる CIMC-E ファイルの一覧を示します。これらのファイルは、Cisco 2911 および Cisco 2921 プラットフォームへのインストールに使用されます。

表 5 cimce-k9.vsem.1.0.2.tar.gz 内の CIMC-E ファイル。Cisco 2911 および Cisco 2921 プラットフォームへのインストールに使用

ファイル名	目的
cimce-installer.vsem.1.0.2	CIMC-E 復旧ヘルパー イメージ。Cisco Embedded-Service-Engine へのアプリケーションのインストールに役立ちます。
cimce-k9.vsem.1.0.2.pkg	Cisco Embedded Service Engine に CIMC-E をインストールするためのメインパッケージ。
cimce-full.vsem.1.0.2.prt1	CIMC-E を完全にインストールするための、すべてのデータと実行可能ファイルを含むパッケージ ペイロード。
cimce-installer.vsem.1.0.2.prt1	CIMC-E 関連のインストーラ サブシステムの、すべてのデータと実行可能ファイルを含むパッケージ ペイロード。
cimce-k9.vsem.1.0.2.pkg.install.sre	インストーラ TCL スクリプト。
cimce-k9.vsem.1.0.2.pkg.install.sre.header	インストーラ TCL スクリプト ヘッダー。
cimce-k9.vsem.1.0.2.key	SRE キーファイル。

表 6 に、cimce-k9.vsep.1.0.2.tar.gz に含まれる CIMC-E ファイルの一覧を示します。これらのファイルは、Cisco 2951、Cisco 3925、および Cisco 3945 プラットフォームへのインストールに使用されます。

表 6 cimce-k9.vsep.1.0.2.tar.gz 内の CIMC-E ファイル。Cisco 2951、Cisco 3925、および Cisco 3945 プラットフォームへのインストールに使用

ファイル名	目的
cimce-installer.vsep.1.0.2	CIMC-E 復旧ヘルパー イメージ。Cisco Embedded-Service-Engine へのアプリケーションのインストールに役立ちます。
cimce-k9.vsep.1.0.2.pkg	Cisco Embedded Service Engine に CIMC-E をインストールするためのメインパッケージ。
cimce-full.vsep.1.0.2.prt1	CIMC-E を完全にインストールするための、すべてのデータと実行可能ファイルを含むパッケージ ペイロード。
cimce-installer.vsep.1.0.2.prt1	CIMC-E 関連のインストーラ サブシステムの、すべてのデータと実行可能ファイルを含むパッケージ ペイロード。
cimce-k9.vsep.1.0.2.pkg.install.sre	インストーラ TCL スクリプト。
cimce-k9.vsep.1.0.2.pkg.install.sre.header	インストーラ TCL スクリプト ヘッダー。
cimce-k9.vsep.1.0.2.key	SRE キーファイル。

Embedded Service Engine への CIMC-E のインストール

Embedded Service Engine に CIMC-E をインストールするには、次の各項で示す手順に従ってください。

- 「Embedded Service Engine の設定（必須）」 (P.10)
- 「Embedded Service Engine への CIMC-E のインストール」 (P.13)
- 「CIMC-E 用の Cisco ISR G2 の設定」 (P.15)
- 「CIMC-E CLI へのアクセス」 (P.20)
- 「CIMC-E の設定」 (P.20)
- 「CIMC-E が正しく設定されていることの確認」 (P.21)

Embedded Service Engine の設定（必須）



(注)

シスコによって CIMC-E ソフトウェアがプレインストールされている場合でも、この項の設定手順を実行する必要があります。

Embedded Service Engine を管理するため、新しいインターフェイス **Embedded-Service-Engine** が既存の **service-module** コマンドに追加されています。Embedded Service Engine を設定するには、次の手順を実行する必要があります。

1. `embedded-service-engine 0/0` インターフェイスで、コンフィギュレーション コマンド **service-module enable** を入力します。
2. 設定を NVRAM に保存します。
3. システムを再起動します。

Embedded Service Engine にアプリケーションをインストールする前に、システムを再起動する必要があります。

手順の概要

ホスト ルータの CLI より

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `interface Embedded-Service-Engine 0/0`
4. `service-module enable`
5. `ip address module-side-ip-address subnet-mask`
または
`ip unnumbered type number`
6. `service-module ip address module-side-ip-address subnet-mask`
7. `service-module ip default-gateway gateway-ip-address`
8. `no shutdown`
9. `exit`
10. `ip route prefix mask ip-address`

11. end
12. copy running-config startup-config
13. show running-config
14. reload

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
	ホストルータの CLI より	
ステップ 1	<pre>enable password</pre> <p>例 : Router> enable Router> password Router#</p>	ホスト ルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<pre>configure terminal</pre> <p>例 : Router# configure terminal</p>	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<pre>interface Embedded-Service-Engine 0/0</pre> <p>例 : Router(config)# interface Embedded-Service-Engine 0/0</p>	Embedded Service Engine が存在するスロットとポート用のインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<pre>service-module enable</pre> <p>例 : Router(config-if)# service-module enable</p>	サービス モジュール インターフェイスで Embedded Service Engine をイネーブルにして、ハードウェア リソースをパーティション化します。
ステップ 5	<pre>ip address module-side-ip-address subnet-mask</pre> <p>または</p> <pre>ip unnumbered type number</pre> <p>例 : Router(config-if)# ip address 10.10.10.1 255.255.0.0</p> <p>または</p> <pre>Router(config-if)# ip unnumbered gigabitethernet 1/0</pre>	<p>インターフェイスのルータ側の IP アドレスを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>router-side-ip-address subnet-mask</i> : ルータの IP アドレスとサブネット マスクを示します。 <p>または</p> <p>明示的な IP アドレスをインターフェイスに割り当てずにインターフェイス上の IP 処理をイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>type</i> : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスのタイプを示します。 • <i>number</i> : 割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスの番号を示します。 <p>(注) アンナンバード インターフェイスを別のアンナンバード インターフェイスにはできません。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	<pre>service-module ip address module-side-ip-address subnet-mask</pre> <p>例:</p> <pre>Router(config-if)# service-module ip address 10.10.10.2 255.255.255.0</pre>	<p>インターフェイスのモジュール側の IP アドレスを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>module-side-ip-address</i> : モジュールの IP アドレスを示します。 <i>subnet-mask</i> : IP アドレスに追加するサブネットマスクで、ホスト ルータと同じサブネットにあることが必要
ステップ 7	<pre>service-module ip default-gateway gateway-ip-address</pre> <p>例:</p> <pre>Router(config-if)# service-module ip default-gateway 10.10.10.1</pre>	<p>モジュールのデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>gateway-ip-address</i> : デフォルト ルータの IP アドレスを示します。
ステップ 8	<pre>no shutdown</pre> <p>例:</p> <pre>Router(config-if)# end</pre>	<p>ディセーブルにされたインターフェイスを再起動します。</p>
ステップ 9	<pre>exit</pre> <p>例:</p> <pre>Router(config-if)# end</pre>	<p>ホスト ルータのグローバル コンフィギュレーション モードを終了します。</p>
ステップ 10	<pre>ip route prefix mask ip-address</pre> <p>例:</p> <pre>Router# ip route 10.0.0.1 255.255.255.255 Embedded-Service-Engine0/0</pre>	<p>スタティック ルートを確立します。</p> <p>(注) ステップ 5 で、Embedded Service Engine インターフェイスで ip unnumbered コマンドが設定されている場合は、ip route コマンドを使用してスタティック ルートを SM に追加する必要があります。</p>
ステップ 11	<pre>end</pre> <p>例:</p> <pre>Router(config-if)# end</pre>	<p>ホスト ルータの特権 EXEC モードに戻ります。</p>
ステップ 12	<pre>copy running-config startup-config</pre> <p>例:</p> <pre>Router# copy running-config startup-config</pre>	<p>ルータの新しい実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションとして保存します。</p>
ステップ 13	<pre>show running-config</pre> <p>例:</p> <pre>Router# show running-config</pre>	<p>アドレス設定を検証できるようにルータの実行コンフィギュレーションを表示します。</p>
ステップ 14	<pre>reload</pre> <p>例:</p> <pre>Router# reload Proceed with reload? [confirm]</pre>	<p>オペレーティング システムをリロードします。</p>

Embedded Service Engine の設定 : 例

次に、Embedded Service Engine をイネーブルにする例を示します。

```
interface Embedded-Service-Engine0/0
 ip address 10.10.10.1 255.255.0.0
 service-module enable
 service-module ip address 10.10.10.2 255.255.0.0
 service-module ip default-gateway 10.10.10.1
!
```

リソースは、設定が NVRAM に保存され、システムが再起動された後に、最初のコアと Embedded Service Engine 間で分割されます。

```
Router# show running-config
Router# copy running-config startup-config
Router# reload
Proceed with reload? [confirm]
```

Embedded Service Engine への CIMC-E のインストール

Embedded Service Engine への CIMC-E のインストールは、SRE 対応サービス モジュールでのアプリケーションのインストールと類似しています。



(注)

ファイルのダウンロード中および実際のインストール開始前にインストールを停止するには、**service-module Embedded-Service-Engine 0/0 install abort** コマンドを使用します。詳細については、『[Cisco IOS Interface and Component Command Reference](#)』を参照してください。

インストールの開始後は、「Installation successful...」のメッセージが表示されるまで、モジュールにコマンドを入力しないでください。

Embedded Service Engine 上に CIMC-E をインストールするには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. **enable**
2. **service-module embedded-service-engine 0/0 install url *url***
3. **service-module embedded-service-engine 0/0 status**
4. **exit**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<pre>enable password</pre> <p>例:</p> <pre>Router> enable Router> password Router#</pre>	<p>特権 EXEC モードをイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<pre>service-module embedded-service-engine 0/0 install url url</pre> <p>例:</p> <pre>Router# service-module embedded-service-engine 0/0 install url ftp://user:password@10.86.26.195/new/vsep/cimce -k9.vsep.1.0.2.pkg</pre>	<p>Cisco SRE を使用して、サービス モジュール (Cisco SM-SRE) にアプリケーションをインストールします。</p> <ul style="list-style-type: none"> url url : RFC 2396 に定義されているように、サーバの URL と、アプリケーション パッケージ および Tcl スクリプトがあるディレクトリを指定します。URL は、FTP サーバまたは HTTP サーバの .bin ファイルまたは .pkg ファイルを指す必要があります。ルータは、アプリケーションのインストールを完了するのに必要なその他すべてのファイルをダウンロードしインストールします。
ステップ 3	<pre>service-module embedded-service-engine 0/0 status</pre> <p>例:</p> <pre>Router# service-module embedded-service-engine 0/0 status</pre>	<p>(任意) Embedded Service Engine サービス モジュール上のハードウェアおよびソフトウェアに関連する設定情報を表示します。</p>
ステップ 4	<pre>exit</pre> <p>例:</p> <pre>Router# exit</pre>	<p>特権 EXEC モードを終了します。</p>

Embedded Service Engine 上の CIMC-E のインストール : 例

次に、Embedded Service Engine 上の CIMC-E アプリケーションのインストール例を示します。

```
Router# service-module embedded-Service-Engine 0/0 install url
ftp://10.86.26.195/vsem/cimce-k9.vsem.1.0.2.pkg

Proceed with installation? [no]: yes
Loading nightly/BNDR/vsem/cimce-k9.vsem.1.0.2.pkg.install.sre !
[OK - 15482/4096 bytes]
partition_support is available.
Has enough memory and disk disk space for app install
rsrc_str is disk= 488 mem= 256
raid option -1
sku vsem
ios_version 15.1(20101031:104834)
ios_image c2900-universalk9-mz
pkg name cimce-k9.vsem.1.0.2.pkg
Resource requirements check completed successfully. Proceeding to Install....

CSL-2911#
CSL-2911#
```

```
Install successful on Embedded-Service-Engine0/0
```

「Install successful...」のメッセージは、インストールプロセスが完了したことを示します。
次に、CIMC-E が正常にインストールされた場合の例を示します。

```
Router# service-module embedded-Service-Engine 0/0 status
```

```
Service Module is Cisco Embedded-Service-Engine0/0  
Service Module supports session via TTY line 2  
Service Module is in Steady state  
Service Module heartbeat-reset is enabled  
Getting status from the Service Module, please wait..
```

```
Cisco CIMC-E Software 1.0
```

```
CIMCE Running on VSEM  
Embedded Service Engine boot state is KERNEL UP
```

```
Module resource information:
```

```
CPU Frequency: 500 MHz  
Memory Size: 256 MB  
Disk Size: 488 MB
```

```
No install/uninstall in progress
```

CIMC-E 用の Cisco ISR G2 の設定

CIMC-E の Cisco ISR G2 を設定するには、次の項に記載するタスクを実行します。

- 「[HTTPS サーバおよび認証の設定](#)」(P.15)
- 「[Web Services Management Agent の設定](#)」(P.16)
- 「[ロールバック \(WSMA 機能\) の設定](#)」(P.18)

HTTPS サーバおよび認証の設定

HTTPS サーバを開始する必要があります。



(注)

クライアント認証がイネーブルになっている場合は、CIMC-E が機能しません。CIMC-E には、ローカル認証が必要です。

手順の概要

1. **enable**
2. **config terminal**
3. **ip http secure-server**
4. **ip http authentication local**
5. **exit**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<pre>enable password</pre> <p>例:</p> <pre>Router> enable Router> password Router#</pre>	<p>特権 EXEC モードをイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<pre>configure terminal</pre> <p>例:</p> <pre>Router# config t</pre>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。</p>
ステップ 3	<pre>ip http secure-server</pre> <p>例:</p> <pre>Router(config)# ip http secure-server</pre>	<p>セキュア HTTP (HTTPS) サーバをイネーブルにします。</p>
ステップ 4	<pre>ip http authentication local</pre> <p>例:</p> <pre>Router(config)# ip http authentication local</pre>	<p>HTTP サーバユーザに対して特定の認証方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> local: 認証および許可に、ローカル システム設定 (username グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用) で指定したログイン ユーザ名、パスワード、権限レベル アクセスの組み合わせを使用する必要があることを表します。
ステップ 5	<pre>exit</pre> <p>例:</p> <pre>Router(config)# exit</pre>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。</p>

HTTPS サーバおよび認証の設定: 例

次に、HTTPS サーバおよび認証を設定する例を示します。

```
Router# config t
Router(config)# ip http secure-server
Router(config)# ip http authentication local
Router(config)# exit
Router#
```

Web Services Management Agent の設定

Web Services Management Agent (WSMA) は、CIMC-E と Cisco IOS ソフトウェア間の通信をイネーブルにします。ユーザをレベル 15 の権限に設定する必要があります。また、**config** モードと **exec** モードの両方のコマンドを受信するように WSMA プロファイルを設定する必要があります。

手順の概要

1. **config terminal**
2. **username name privilege privilege-level password 0 password**

3. `wsma profile listener profile-name`
4. `transport https path pathname`
5. `exit`
6. `wsma agent exec profile profile-name`
7. `wsma agent config profile profile-name`
8. `wsma agent notify profile profile-name`
9. `exit`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code> 例: Router# config t	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>username name privilege privilege-level</code> <code>password 0 password</code> 例: Router(config)# username wsmauser privilege 15 password 0 mypassword	ユーザ名をベースとした認証システムを構築します。 <ul style="list-style-type: none">0 : 非暗号化パスワードまたは秘密キー（設定に依存）を伴うことを指定します。
ステップ 3	<code>wsma profile listener profile-name</code> 例: Router(config)# wsma profile listener wsma	WSMA リスナー プロファイルを設定およびイネーブルにして、WSMA リスナー コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	<code>transport https path pathname</code> 例: Router(config-wsma-listen)# transport https path /test	WSMA リスナー プロファイルの転送設定を定義します。
ステップ 5	<code>exit</code> 例: Router(config-wsma-listen)# exit	WSMA リスナー コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	<code>wsma agent exec profile profile-name</code> 例: Router(config)# wsma agent exec profile wsma	WSMA exec エージェントをイネーブルにして、プロファイルに関連付けます。
ステップ 7	<code>wsma agent config profile profile-name</code> 例: Router(config)# wsma agent config profile wsma	WSMA config エージェントをイネーブルにして、プロファイルに関連付けます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	<code>wsma agent notify profile profile-name</code> 例： Router(config)# <code>wsma agent notify profile wsma</code>	WSMA notify エージェントをイネーブルにして、プロファイルに関連付けます。
ステップ 9	<code>exit</code> 例： Router(config)# <code>exit</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。

Web Services Management Agent の設定 : 例

次に、wsma という名前の WSMA リスナー プロファイルを設定する例を示します。

```
Router# config t
Router(config)# username wsmauser privilege 15 password 0 mypassword
Router(config)# wsma profile listener wsma
Router(config-wsma-listen)# transport https path /cimce
Router(config-wsma-listen)# exit
Router(config)# wsma agent exec profile wsma
Router(config)# wsma agent config profile wsma
Router(config)# wsma agent notify profile wsma
Router(config)# exit
Router#
```

ロールバック (WSMA 機能) の設定

ロールバックを使用するには、コマンドをアーカイブ保存できるように Cisco IOS ソフトウェアを設定することによって、WSMA をイネーブルにする必要があります。

手順の概要

1. `config terminal`
2. `archive`
3. `log config`
4. `hidekeys`
5. `exit`
6. `path url`
7. `maximum number`
8. `exit`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code> 例： Router# <code>config t</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	archive 例： Router(config)# archive	アーカイブ コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	log config 例： Router(config-archive)# log config	設定変更ロガー コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	hidekeys 例： Router(config-archive-log-cfg)# hidekeys	パスワード情報がコンフィギュレーション ログ ファイルに表示されないようにします。
ステップ 5	exit 例： Router(config-archive-log-cfg)# exit	設定変更ロガー コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	path url 例： Router(config-archive)# path flash:roll	Cisco IOS コンフィギュレーション アーカイブの場所と、ファイル名のプレフィックスを指定します。
ステップ 7	maximum number 例： Router(config-archive)# maximum 5	Cisco IOS コンフィギュレーション アーカイブに保存される実行コンフィギュレーションのアーカイブ ファイル数の上限値を設定します。
ステップ 8	exit 例： Router(config-archive)# exit	アーカイブ コンフィギュレーション モードを終了します。

ロールバック (WSMA 機能) の設定 : 例

次に、ロールバックを設定する例を示します。

```
Router# config t
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Router(config)# archive
Router(config-archive)# log config
Router(config-archive-log-cfg)# hidekeys
Router(config-archive-log-cfg)# exit
Router(config-archive)# path flash:roll
Router(config-archive)# maximum 5
Router(config-archive)# exit
Router(config)#
```

CIMC-E CLI へのアクセス

任意の Linux ワークステーションから CIMC-E CLI にアクセスするには、次を入力します。

```
ssh admin@Embedded-Service-Engine-Service-Module-IP-Address
```

次に、Embedded Service Engine のサービス モジュール IP アドレスが 10.0.0.2 の場合の例を示します。

```
> ssh admin@10.0.0.2
```

admin@10.0.0.2 のパスワードは、次のとおりです。

```
se-10-0-0-2#
```



(注) CIMC-E のデフォルトのユーザ名とパスワードは、それぞれ「admin」と「password」です。

CIMC-E の設定

Cisco ISR G2 を適切に設定した後に、CIMC-E ソフトウェアを「[CIMC-E 用の Cisco ISR G2 の設定 \(P.15\)](#)」の Cisco ISR G2 での設定と一致するように設定する必要があります。CIMC-E を設定するには、「[CIMC-E CLI へのアクセス \(P.20\)](#)」の説明に従って SSH を使用し、CIMC-E CLI にログインします。scope cimce には、次のコマンドがあります。

手順の概要

1. `scope cimce`
2. `set username username`
3. `set password password`
4. `set url url`
5. `commit`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>scope cimce</code> 例： se-10-0-0-2# scope cimce	cimce モードを開始します。
ステップ 2	<code>set username username</code> 例： se-10-0-0-2 /cimce # set username wsmauser	CIMC-E がルータとの通信に使用するユーザ名を設定します。
ステップ 3	<code>set password password</code> 例： se-10-0-0-2 /cimce # set password mypassword	CIMC-E がルータとの通信に使用するパスワードを設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	<pre>set url url</pre> <p>例:</p> <pre>se-10-0-0-2 /cimce # set url 10.0.0.2/cimce</pre>	CIMC-E と通信を行うルータ Embedded Service Engine IP アドレスの URL を設定します。
ステップ 5	<pre>commit</pre> <p>例:</p> <pre>se-10-0-0-2 /cimce # commit</pre>	設定変更を保存します。

CIMC-E の設定 : 例

次に、Embedded Service Engine から到達可能な Cisco ISR G2 ルータの IP アドレスが 10.0.0.5 である例を示します。

```
ssh admin@10.0.0.5
admin@10.0.0.5's password:
se-10-0-0-5# scope cimce
se-10-0-0-5 /cimce # set username wsmauser
se-10-0-0-5 /cimce *# set password <PASSWORD>
se-10-0-0-5 /cimce *# set url 10.0.0.5/cimce
se-10-0-0-5 /cimce *# commit
Username:          wsmauser
Password:          <hidden>
End Point:         10.0.0.5/cimce
New config changes have been saved
se-10-0-0-5 /cimce #
```



(注) URL は、Cisco ISR G2 の IP アドレスに続く、「[Web Services Management Agent の設定](#)」(P.16) で設定されたパスです。

ここで設定されるユーザ名とパスワードは、「[Web Services Management Agent の設定](#)」(P.16) で設定されるユーザ名とパスワードに対応する必要があります。

CIMC-E が正しく設定されていることの確認

CIMC-E アプリケーションが正しく設定されていることを確認するには、スコープ ルータで **show hardware** コマンドを使用します。次に、Embedded Service Engine の IP アドレスが 10.0.0.5 である例を示します。

```
ssh admin@10.0.0.5
admin@10.0.0.5's password:
se-10-0-0-5# scope router
se-10-0-0-5 /router# show hardware
Cisco IOS Software, C2900 Software (C2900-UNIVERSALK9-M)
Cisco CISCO2911/K9 (revision 1.0) with 729056K/57344K bytes of memory.
Chassis Serial Number   : FTX1405A1Z5
Chassis MAC Address     : 0000.e181.5150
se-10-0-0-5#
```

CIMC-E が正しく設定されている場合、**show hardware** コマンドを実行すると、この例と同様の出力が表示されます。

Embedded Service Engine の管理

ここでは、次の内容について説明します。

- 「Embedded Service Engine のディセーブル化」 (P.22)
- 「Embedded Service Engine のトラブルシューティング」 (P.23)

Embedded Service Engine のディセーブル化

Embedded Service Engine をディセーブルにするには、次の手順を実行する必要があります。

1. embedded-service-engine 0/0 インターフェイス下で、コンフィギュレーション **no service-module enable** を、入力します。
2. 設定を NVRAM に保存します。
3. システムを再起動します。

Embedded Service Engine をディセーブルにすると、すべてのリソースが最初のコアに戻されます。

手順の概要

ホスト ルータの CLI より

1. enable
2. configure terminal
3. interface Embedded-Service-Engine 0/0
4. no service-module enable
5. end
6. copy running-config startup-config
7. show running-config
8. reload

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
	ホスト ルータの CLI より	
ステップ 1	<pre>enable password</pre> <p>例 :</p> <pre>Router> enable Router> password Router#</pre>	ホスト ルータで特権 EXEC モードを開始します。パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	<pre>configure terminal</pre> <p>例 :</p> <pre>Router# configure terminal</pre>	ホスト ルータでグローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	interface Embedded-Service-Engine 0/0 例： Router(config)# interface Embedded-Service-Engine 0/0	Embedded Service Engine が存在するスロットとポート用のインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	no service-module enable 例： Router(config-if)# no service-module enable	サービス モジュール インターフェイス上で Embedded Service Engine をディセーブルにして、ハードウェア リソースを最初のコアに戻します。
ステップ 5	end 例： Router(config-if)# end	ホスト ルータのグローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 6	copy running-config startup-config 例： Router# copy running-config startup-config	ルータの新しい実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションとして保存します。
ステップ 7	show running-config 例： Router# show running-config	アドレス設定を検証できるようにルータの実行コンフィギュレーションを表示します。
ステップ 8	reload 例： Router# reload Proceed with reload? [confirm]	オペレーティング システムをリロードします。

Embedded Service Engine のディセーブル化 : 例

次に、Embedded Service Engine をディセーブルにする例を示します。

```
interface Embedded-Service-Engine0/0
  no service-module enable
!
```

リソースは、設定が NVRAM に保存され、システムが再起動された後に、最初のコアに戻されます。

```
Router# copy running-config startup-config
Router# show running-config
Router# reload
Proceed with reload? [confirm]
```

Embedded Service Engine のトラブルシューティング

この項では、次のシナリオのトラブルシューティング情報について説明します。

- 「Embedded Service Engine がイネーブルになっていることの確認」 (P.24)
- 「システム リソースの確認」 (P.24)

- 「Embedded Service Engine のステータスの確認」 (P.24)
- 「Embedded Service Engine が起動されていることの確認」 (P.25)
- 「uboot イメージの破損」 (P.25)
- 「uboot 設定の破損」 (P.26)
- 「アプリケーションのインストールの確認」 (P.26)

Embedded Service Engine がイネーブルになっていることの確認

Cisco IOS ソフトウェア プロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
Router# show running-config
```

コマンド出力で、「service-module enable」の行が Embedded-Service-Engine0/0 インターフェイス下に存在することを確認します。

```
interface Embedded-Service-Engine0/0
 ip address 10.10.10.1 255.255.0.0
 service-module enable
 service-module ip address 10.10.10.2 255.255.0.0
 service-module ip default-gateway 10.10.10.1
!
```

十分なメモリが存在しないシステムで Embedded Service Engine をイネーブルにしようとする、次のメッセージが表示されます。

```
2911B# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
2911B(config)# interface Embedded-Service-Engine 0/0
2911B(config-if)# service-module enable
```

```
Memory size does not meet the requirements of Embedded-Service-Engine 0/0
```

システム リソースの確認

Embedded Service Engine をイネーブルにして設定を保存し、ルータを再起動した後、**show diag** コマンドを入力します。Embedded Service Engine リソースが、次の例のように表示されることを確認します。

```
Show diag:
.
.
.
Embedded Service Engine 0/0 :
  Total platform memory : 2097152K bytes
  Total 2nd core memory : 262144K bytes
  Start of physical address for 2nd core : 0x20000000
  Number of blocks of memory for 2nd core : 1
  2nd core configured enabled
  L2 cache ways for 2nd core : 1
  CF1 for 2nd core
  Mac address of interface is 8843.e100.0006
  Mac address of 2nd core is 8843.e100.0007
```

Embedded Service Engine のステータスの確認

service-module status コマンドを使用して、Embedded Service Engine のステータスを確認します。


```
C2951# service-module embedded-Service-Engine 0/0 status
Service Module is Cisco Embedded-Service-Engine0/0
Service Module supports session via TTY line 2
Service Module is in Steady state
Service Module heartbeat-reset is enabled
```

Getting status from the Service Module, please wait..

```
Cisco CIMCE Software 1.0
Fndn running on C2951
Embedded Service Engine boot state is KERNEL UP
No install/uninstall in progress
```

状態が RESET または FAILED ではないことを確認します。

状態が RESET の場合は、次の手順を実行します。

- **service-module embedded-Service-Engine 0/0 status** コマンドを使用して、Embedded Service Engine がイネーブルになっていることを確認します。
- **show interface embedded-service-engine** コマンドを使用して、インターフェイスがシャットダウンされていないことを確認します。

状態が FAILED の場合は、「[uboot イメージの破損](#)」(P.25) を参照してください。

Embedded Service Engine が起動されていることの確認

コンソール ログをチェックし、Embedded Service Engine が KERNEL に起動されていることを確認します。

```
*Sep 20 18:41:54.283: %SECONDCORE-5-BOOTSTAGE: ROMMON on 2nd core UP
*Sep 20 18:41:54.287: %SECONDCORE-5-BOOTSTAGE: UBOOT on 2nd core UP
*Sep 20 18:41:55.359: %SM_INSTALL-6-INST_RBIP: Embedded-Service-Engine0/0 received msg:
RBIP Registration Request
*Sep 20 18:41:56.203: %LINK-3-UPDOWN: Interface Embedded-Service-Engine0/0, changed state
to up
*Sep 08 18:46:23.639: %SECONDCORE-5-BOOTSTAGE: KERNEL on 2nd core UP
```

uboot イメージの破損

uboot イメージが破損している場合、次のコンソール メッセージが表示されます。

```
Router#
*Sep 28 18:40:01.898: %SECONDCORE-3-UBOOT_BADMAGIC: Invalid Image magic is 0xD0A5468
expected 0x42553049
*Sep 28 18:40:01.898: %SECONDCORE-3-NOT_LAUNCHED: Second core not launched
*Sep 28 18:40:01.922: %SECONDCORE-3-UBOOT_BADMAGIC: Invalid Image magic is 0xD0A5468
expected 0x42553049
*Sep 28 18:40:01.922: %SECONDCORE-3-NOT_LAUNCHED: Second core not launched
*Sep 28 18:40:03.894: %LINK-3-UPDOWN: Interface Embedded-Service-Engine0/0, changed state
to down
```

uboot イメージが破損している場合は、次の操作を実行します。

1. enable
2. configure terminal
3. interface Embedded-Service-Engine 0/0
4. no service-module enable

5. service-module enable**6. end**

設定を NVRAM に保存する必要はなく、再起動は不要です。

uboot 設定の破損

Embedded Service Engine とのセッションを開きます。

```
Router# service-module embedded-Service-Engine 0/0 session
```

```
Trying 10.10.10.1, 2002 ... Open
```

```
***
```

```
ServicesEngine Bootloader Version : 1.0
```

```
boot loader > show config
```

```
IP Address:          10.10.10.2
Subnet Mask:         255.255.0.0
TFTP Server:         10.10.10.1
Gateway:             10.10.10.1
Default Helper-file: cimce-installer.vsep.eng_bld.prt1
Ethernet Interface:  internal
Default Boot:      disk
Default Bootloader: primary
Bootloader Version: 1.0
```

Embedded Service Engine が uboot プロンプトで停止している場合は、uboot 設定が消失または破損している可能性があります。上記の [Default Boot] フィールドが NULL の場合は、uboot 設定の読み取りに失敗したか、uboot 設定が破損している可能性があります。Cisco IOS ソフトウェア プロンプトから次のコマンドを入力します。

```
Router# service-module embedded-service-engine 0/0 reset
```

アプリケーションのインストールの確認

次に、Embedded Service Engine 上の CIMC-E アプリケーションのインストール例を示します。

```
Router# service-module embedded-Service-Engine 0/0 install url
ftp://example@10.86.26.195/new/vsep/cimce-k9.vsep.1.0.2.pkg
```

```
Proceed with installation? [no]: yes
Loading new/vsep/cimce-k9.vsep.1.0.2.pkg.install.sre !
[OK - 15049/4096 bytes]
partition_support is available.
Has enough memory and disk disk space for app install
rsrc_str is disk= 256 mem= 256
raid option -1
sku vsep
ios_version 15.1(20101009:200234)
ios_image c2951-universalk9-mz
pkg_name cimce-k9.vsep.1.0.2.pkg
Resource requirements check completed successfully. Proceeding to Install....
```

CIMC-E が正しくインストールされていることを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
Router# service-module embedded-Service-Engine 0/0 status
Service Module is Cisco Embedded-Service-Engine0/0
Service Module supports session via TTY line 2
```

```
Service Module is in Steady state
Service Module heartbeat-reset is enabled
Getting status from the Service Module, please wait..
```

```
Cisco CIMC-E Software 1.0
CIMCE Running on VSEM
Embedded Service Engine boot state is KERNEL UP
No install/uninstall in progress
```

サーバの管理

ここでは、次の内容について説明します。

- 「CIMC-E プロパティの構成」 (P.27)
- 「全体のサーバステータスの表示」 (P.28)
- 「モジュールのシャットダウン」 (P.29)
- 「モジュールのリロード」 (P.30)
- 「モジュールのリセット」 (P.30)
- 「モジュールへのソフトウェアのインストール」 (P.30)

CIMC-E プロパティの構成

CIMC-E との通信をイネーブルにするには、次の手順を実行します。また、「CIMC-E の設定」 (P.20) の説明に従って、CIMC-E コマンドラインからこの設定を実行することもできます。

手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインの [Server] タブをクリックします。
- ステップ 2** [Server] タブの [CIMC-E Configuration] をクリックします。
- ステップ 3** 次の情報を入力します。

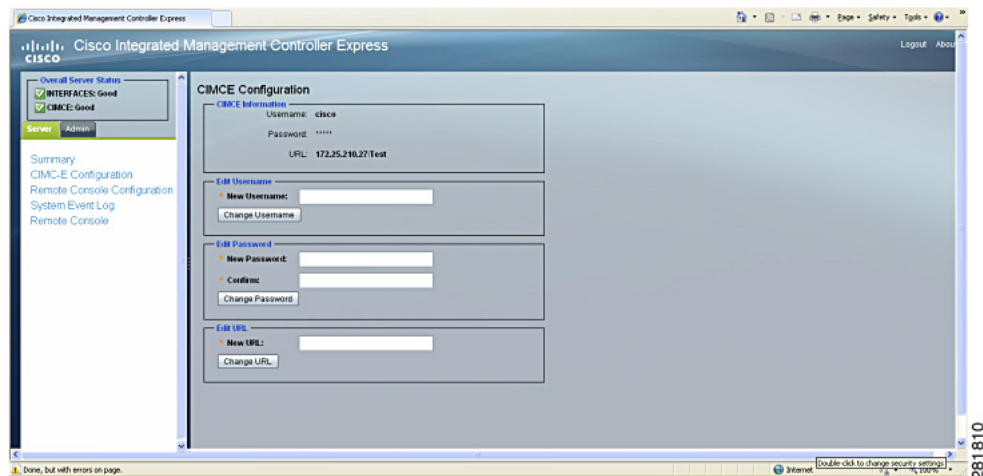
表 7 [CIMC-E Configuration] フィールドの説明

名前	説明
Username	CIMC-E と通信するためのユーザ名。
Password	CIMC-E と通信するためのパスワード。
URL	ルータの URL。

- ステップ 4** [Change Username] をクリックしてユーザ名を変更します。
- ステップ 5** [Change Password] をクリックしてパスワードを変更します。
- ステップ 6** [Change URL] をクリックして URL を変更します。

図 2 に、[CIMC-E Configuration] ペインを示します。

図 2 [CIMC-E Configuration] ペイン



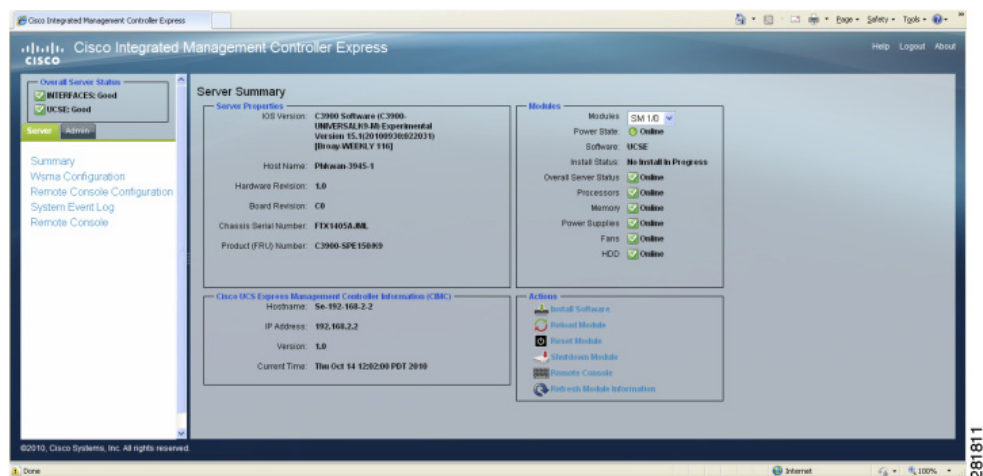
全体のサーバステータスの表示

全体のサーバステータスを表示するには、次の手順に従います。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Overall Server Status] 領域で、インターフェイスと CIMC-E ステータスを表示します。
- ステップ 2 (任意) 図 3 に、[Server Summary] ペインを示します。

図 3 [Server Summary] ペイン



[Server Summary] ペインの [Modules] 領域で、次の情報を確認します。

表 8 [Module] サマリー フィールドの説明

名前	説明
[Power State] フィールド	現在の電源状態。
[Software] フィールド	モジュールで実行するソフトウェア（たとえば、CIMC-E）。
[Install Status] フィールド	進行中のインストールのステータス。次のステータスがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • No install in progress • Install in progress • Aborting install
[Overall Server Status] フィールド	サーバの全体的なヘルス。 <ul style="list-style-type: none"> • Online • Not available
[Processors] フィールド	プロセッサの全体的なヘルス。
[Memory] フィールド	メモリ モジュールの全体的なヘルス。
[Power Supplies] フィールド	電源装置の全体的なヘルス。
[Fans] フィールド	ファンの全体的なヘルス。
[HDD] フィールド	HDD の全体的なヘルス。

モジュールのシャットダウン

モジュールをシャットダウンするには、次の手順に従います。

はじめる前に

シャットダウンするモジュールの権限が必要です。

手順

-
- ステップ 1** [Navigation] ペインの [Server] タブをクリックします。
 - ステップ 2** [Server] タブの [Summary] をクリックします。
 - ステップ 3** [Actions] 領域で [Shutdown Module] をクリックします。
-

モジュールのリロード

モジュールをリロードするには、次の手順に従います。

はじめる前に

リロードするモジュールの権限が必要です。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Server] タブをクリックします。
 - ステップ 2 [Server] タブの [Summary] をクリックします。
 - ステップ 3 [Actions] 領域で [Reload Module] をクリックします。
-

モジュールのリセット

モジュールをリセットするには、次の手順に従います。

はじめる前に

リセットするモジュールの権限が必要です。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Server] タブをクリックします。
 - ステップ 2 [Server] タブの [Summary] をクリックします。
 - ステップ 3 [Actions] 領域で [Reset Module] をクリックします。
-

モジュールへのソフトウェアのインストール

モジュールにソフトウェアをインストールするには、次の手順に従います。

はじめる前に

ソフトウェアをインストールするモジュールの権限が必要です。

手順

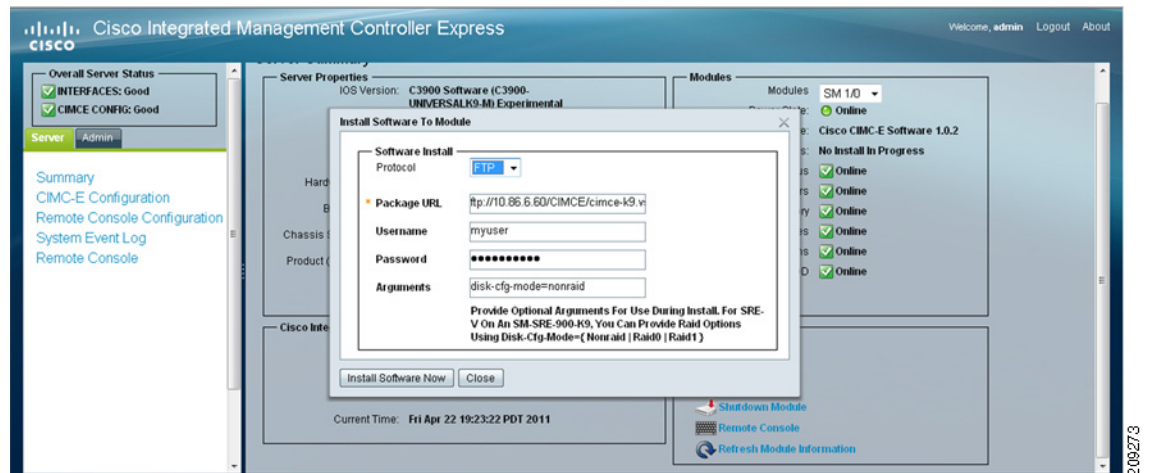
- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Server] タブをクリックします。
- ステップ 2 [Server] タブの [Summary] をクリックします。
- ステップ 3 [Actions] 領域で [Install Software] をクリックします。

ステップ 4 図 4 に示す [Install Software to Module] 画面で、次の情報を入力します。

表 9 [Install Software to Module] フィールドの説明

フィールド名	説明
Package URL	インストールされるファイルの URL
Username	モジュールの権限を持つユーザ名
Password	このユーザ名のパスワード
Arguments	インストール用の名前と値のペアの引数

図 4 [Install Software to Module] 画面



ステップ 5 [Install Software Now] をクリックします。

サーバのプロパティの表示

サーバのプロパティを表示するには、次の手順に従います。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Server] タブをクリックします。
- ステップ 2 [Server] タブの [Summary] をクリックします。
- ステップ 3 [Server Properties] 領域で、次の情報を確認します。

表 10 [Server Properties] フィールドの説明

名前	説明
[Cisco IOS Version] フィールド	Cisco IOS ソフトウェアのバージョン
[Host Name] フィールド	サーバのホスト名
[Hardware Revision] フィールド	カードハードウェアのリビジョン

表 10 [Server Properties] フィールドの説明 (続き)

名前	説明
[Board Revision] フィールド	システム ボードのリビジョン
[Chassis Serial Number] フィールド	シャーシのシリアル番号
[Product (FRU) Number] フィールド	現場交換可能ユニット数

CIMC-E 情報の表示

CIMC-E 情報を表示するには、次の手順に従います。

手順

-
- ステップ 1** [Navigation] ペインの [Server] タブをクリックします。
- ステップ 2** [Server] タブの [Summary] をクリックします。
- ステップ 3** [CIMC-E Information] 領域で、次の情報を確認します。

表 11 [Server Properties] フィールドの説明

名前	説明
[Hostname] フィールド	Embedded Service Engine のホスト名
[IP Address] フィールド	Embedded Service Engine の IP アドレス
[Version] フィールド	CIMC-E のバージョン
[Current Time] フィールド	CIMC-E の時刻

リモート コンソールの管理

ここでは、次の内容について説明します。

- [「リモート コンソールの設定」 \(P.32\)](#)
- [「リモート コンソールの使用」 \(P.33\)](#)

リモート コンソールの設定

リモート コンソールを設定するには、次の手順に従います。

手順

-
- ステップ 1** [Navigation] ペインの [Server] タブをクリックします。
- ステップ 2** [Server] タブの [Remote Console Configuration] をクリックします。

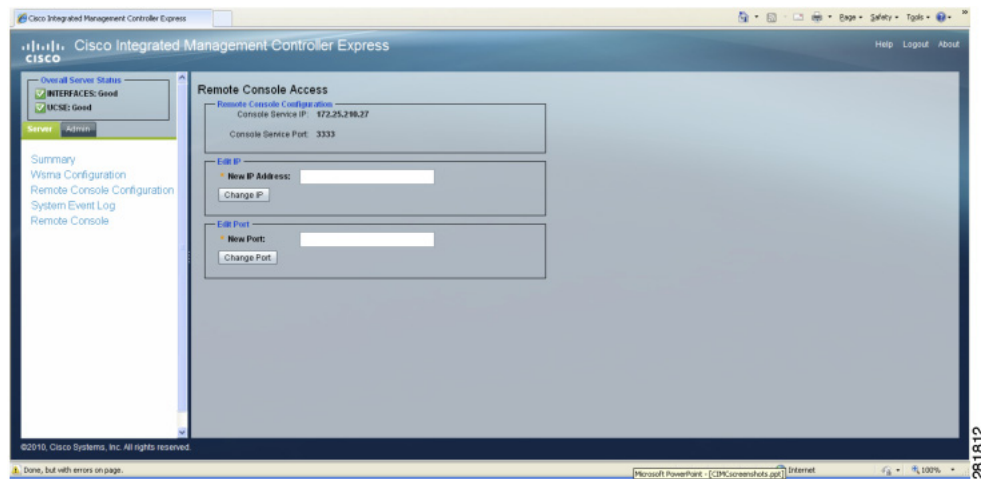
ステップ 3 図 5 に示す [Remote Console Access] ペインで、次の情報を入力します。

表 12 [Remote Console Access] フィールドの説明

名前	説明
[New IP Address] フィールド	Embedded Service Engine サービス モジュールの IP アドレス。
[New Port] フィールド	Telnet 接続を受け入れる Embedded Service Engine のポート。ポート 23 は、共通の Telnet ポートです。

ステップ 4 新しい情報を入力した後、[Change IP] または [Change Port] をクリックします。

図 5 [Remote Console Access] ペイン



(注) この画面では、Web ブラウザが Embedded Service Engine のポート 23 に到達する方法を提供します。このポートでネットワーク アドレス変換 (NAT) が使用されている場合は、変換された IP アドレスと使用するポートを入力します。このポートで NAT が使用されていない場合は、Embedded Service Engine の IP アドレスを入力し、ポート 23 を使用します。

リモートコンソールの使用

リモートコンソールを使用して、ルータブレードのアプリケーションに Telnet で接続できます。たとえば、Cisco SRE-V に Telnet で接続し、Cisco Software Licensing (CSL) ライセンスを受け入れることができます。

手順

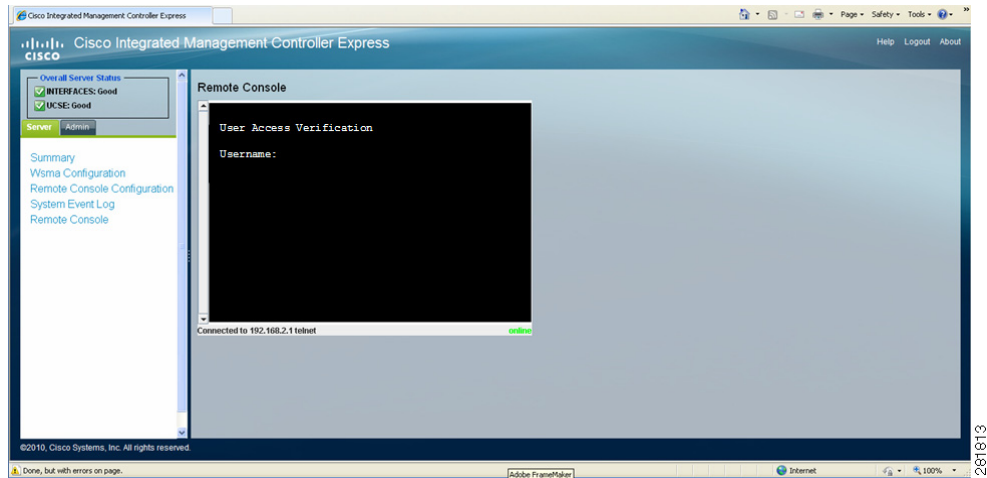
ステップ 1 [Navigation] ペインの [Server] タブをクリックします。

ステップ 2 [Server] タブの [Remote Console] をクリックします。

ステップ 3 [Remote Console] ペインのプロンプトに CIMC-E コマンドを入力します。

図 6 に、[Remote Console] ペインを示します。

図 6 [Remote Console] ペイン



ユーザ アカウントの管理

ここでは、次の内容について説明します。

- 「ローカル ユーザの作成」 (P.34)
- 「ユーザ権限の設定」 (P.36)
- 「ローカル ユーザの表示」 (P.38)
- 「ユーザセッションの表示」 (P.39)

ローカル ユーザの作成

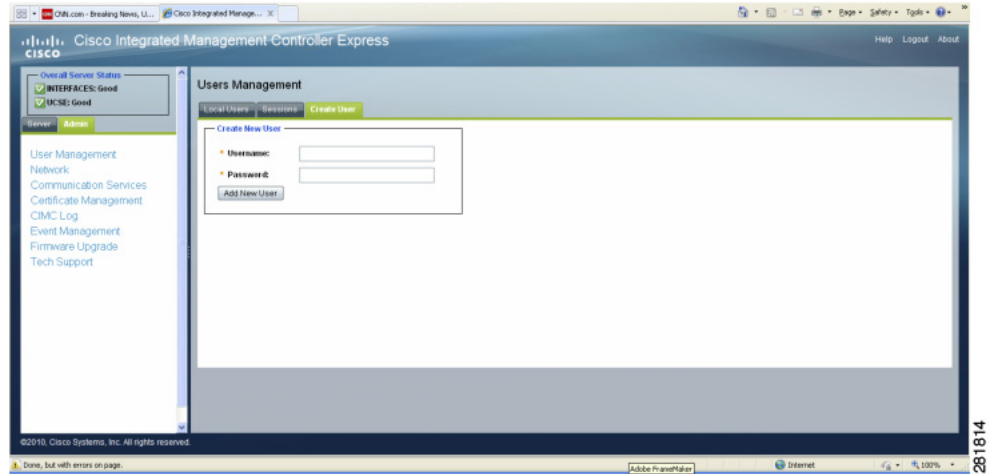
ローカル ユーザを作成するには、次の手順に従います。

はじめる前に

ローカル ユーザを設定するには、**admin** ユーザとしてログインする必要があります。

図 7 に、[Create User] 画面を示します。

図 7 [Create User] ペイン



手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2 [Admin] タブの [User Management] をクリックします。
- ステップ 3 [User Management] ペインの [Create User] タブをクリックします。
- ステップ 4 ローカルユーザを設定するには、[Local User] タブをクリックします。
- ステップ 5 行をクリックします。
- ステップ 6 [User Details] ダイアログボックスで、次のプロパティを更新します。

表 13 ユーザのプロパティ

名前	説明
[ID] カラム	ユーザの固有識別情報。
[Enabled] チェックボックス	オンにすると、ユーザは CIMC-E でイネーブルになります。
[User Name] カラム	ユーザのユーザ名。

表 13 (続き) ユーザのプロパティ (続き)

名前	説明
[Role] カラム	<p>ユーザに割り当てられているロール。次のステータスがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [read-only] : このユーザは情報を表示できますが、変更することはできません。 • [user] : このユーザは、権限を持つモジュールで次の処理を実行できます。 <ul style="list-style-type: none"> - すべての情報を表示する <p>このユーザは、権限に関係なく、すべてのモジュールの情報を表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 電源のオン、電源再投入、電源のオフなどの電力制御オプションを管理する - (CLI から) すべてのログをクリアする • [admin] : このユーザは、GUI および CLI で可能なすべての処理を実行できます。

ステップ 7 パスワード情報を入力します。

ステップ 8 [Save Changes] をクリックします。

ユーザ権限の設定

ユーザ権限を設定するには、次の手順に従います。

手順

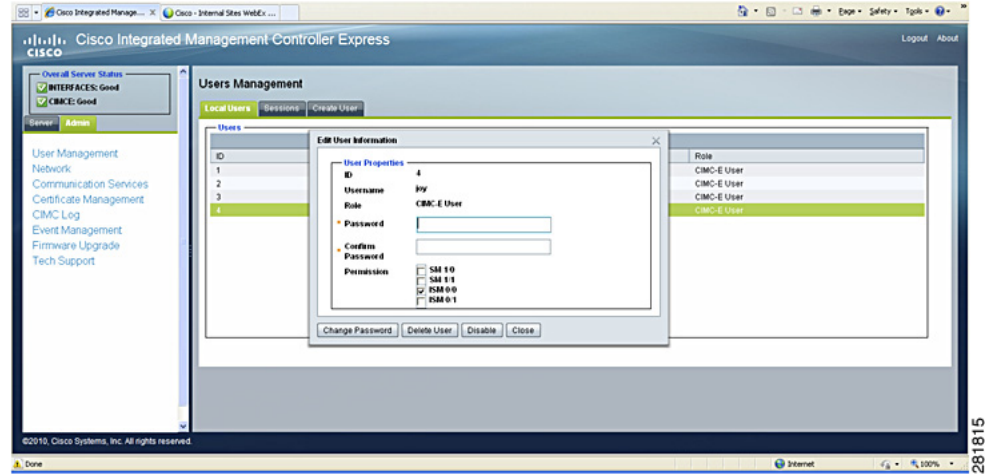
ステップ 1 [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。

ステップ 2 [Admin] タブの [User Management] をクリックします。

ステップ 3 [Local User] タブで、ローカルユーザの行をクリックします。

ステップ 4 [Edit User Information] ダイアログボックスを [図 8](#) に示します。

図 8 [Edit User Information] ダイアログボックス



[Edit User Information] ダイアログボックスでは、次のプロパティを更新できます。

表 14 ユーザ情報

名前	説明
Password	ユーザのパスワード。
Confirm Password	確認のため、ユーザのパスワードをもう一度入力します。
Permission	ユーザが設定可能なモジュール。適用するものをすべてオンにします。




(注) admin ユーザの場合は、パスワードのみ変更できます。admin ユーザのモジュール権限を変更することはできません。

- ステップ 5 (任意) ユーザのパスワードを変更するには、パスワード情報を入力します。
- ステップ 6 [Change Password] をクリックします。
- ステップ 7 (任意) ユーザを削除するには、[Delete User] をクリックします。
- ステップ 8 (任意) ユーザをディセーブルにするには、[Disable] をクリックします。
- ステップ 9 (任意) モジュールの権限を割り当てるには、適切なモジュールのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 10 [Close] をクリックします。
- ステップ 11 [Change Password]、[Delete User]、[Disable]、[Close] をクリックします。

ローカル ユーザの表示

ローカル ユーザを表示するには、次の手順に従います。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2 [Admin] タブの [User Management] をクリックします。
- ステップ 3 [User Management] ペインの [Local Users] タブをクリックします。
- ステップ 4  9 に示す [Local Users] 画面で、ローカル ユーザに関する次の情報を表示します。



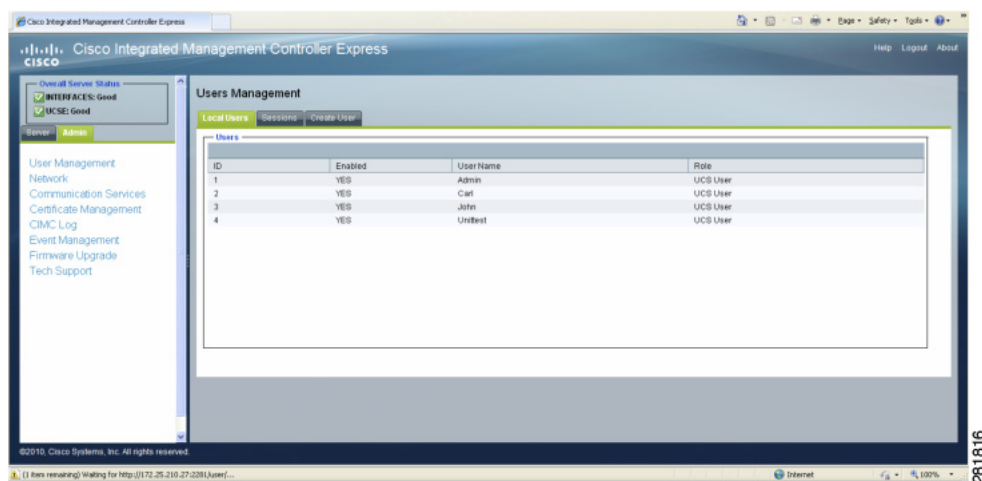
ヒント

カラムの見出しをクリックすると、そのカラムのエントリに従って表の行がソートされます。

表 15 [Local Users] 画面のフィールドの説明

名前	説明
[ID] カラム	ユーザの固有識別情報。
[Enabled] カラム	ユーザが CIMC-E でイネーブルになっているかどうか。
[User Name] カラム	ユーザのユーザ名。
[Role] カラム	ユーザに割り当てられているロール。

図 9 [Local Users] ペイン



ユーザ セッションの表示

ユーザセッションを表示するには、次の手順に従います。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2 [Admin] タブの [User Management] をクリックします。
- ステップ 3 [User Management] ペインの [Sessions] タブをクリックします。
- ステップ 4 表 16 に、現在のユーザセッションに関する情報を示します。



ヒント

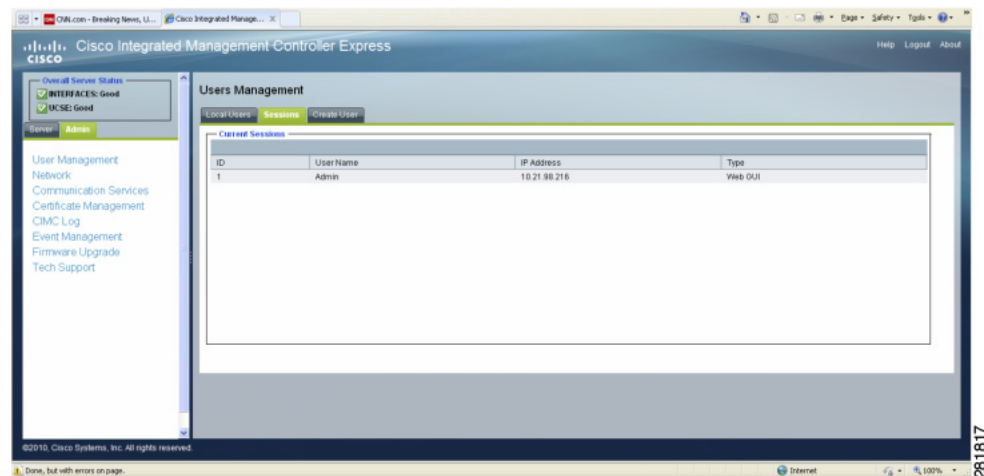
カラムの見出しをクリックすると、そのカラムのエントリに従って表の行がソートされます。

表 16 [Local Users] 画面のフィールドの説明

名前	説明
[Session ID] カラム	セッションの固有識別情報。
[User Name] カラム	ユーザのユーザ名。
[IP Address] カラム	ユーザがサーバにアクセスした IP アドレス。
[Type] カラム	ユーザがサーバにアクセスした方法。

図 10 に、[Sessions] 画面を示します。

図 10 [Sessions] 画面



ネットワーク関連の設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「NIC プロパティの設定」 (P.40)
- 「IPv4 の設定」 (P.40)
- 「モジュール プロパティの設定」 (P.41)
- 「VLAN の設定」 (P.42)

NIC プロパティの設定

NIC プロパティを設定するには、次の手順に従います。

はじめる前に

NIC を設定するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
 - ステップ 2** [Admin] タブの [Network] をクリックします。
 - ステップ 3** [Network] ペインの [Network Settings] タブをクリックします。
 - ステップ 4** [NIC Properties] 領域で、インターフェイスを選択します。
-

IPv4 の設定

IPv4 を設定するには、次の手順に従います。

はじめる前に

IPv4 を設定するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
 - ステップ 2** [Admin] タブの [Network] をクリックします。
 - ステップ 3** [Network] ペインの [Network Settings] タブをクリックします。
 - ステップ 4** [IPv4 Properties] 領域で、次のプロパティを更新します。

表 17 [IPv4 Properties] フィールドの説明

名前	説明
[Power State] フィールド	モジュールがオンラインかどうか。
[IP Address] フィールド	モジュールの IP アドレス。
[IP Subnet] フィールド	サブネット。

- ステップ 5** [Save Changes] をクリックして更新されたプロパティを保存します。
- ステップ 6** [Shutdown] をクリックして IPv4 をシャットダウンします。

モジュール プロパティの設定

モジュール プロパティを設定するには、次の手順に従います。

はじめる前に

モジュール プロパティを設定するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2** [Admin] タブの [Network] をクリックします。
- ステップ 3** [Network] ペインの [Network Settings] タブをクリックします。
- ステップ 4** [Module Properties] 領域で、次のプロパティを更新します。

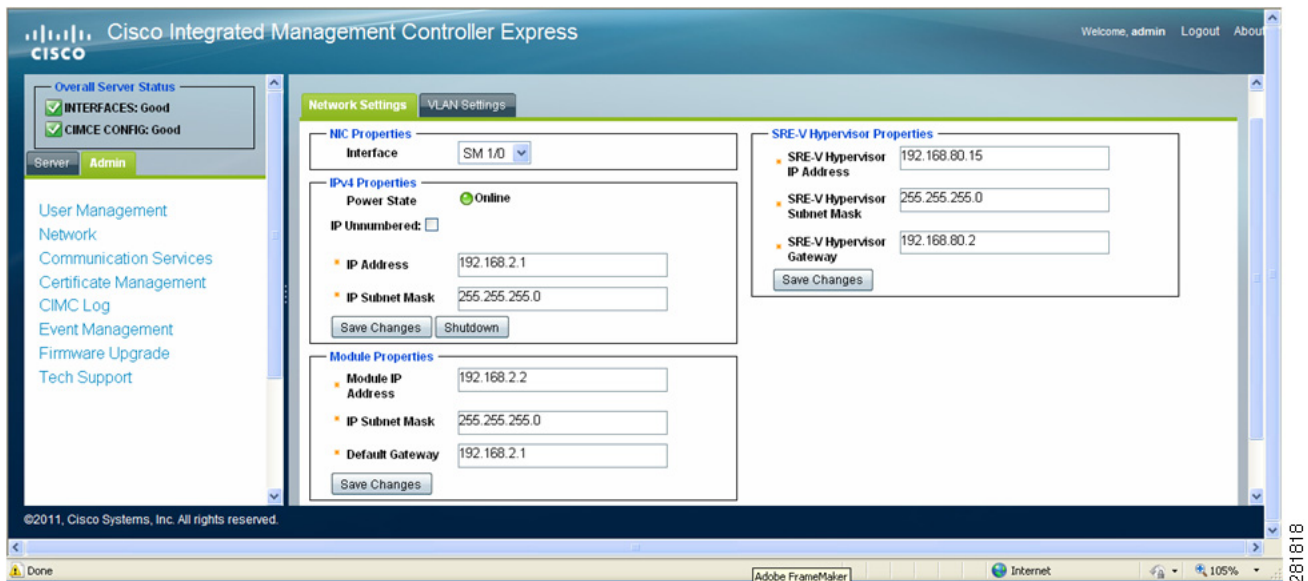
表 18 [Module Properties] フィールドの説明

名前	説明
[Module IP Address] フィールド	モジュールの IP アドレス。
[IP Subnet Mask] フィールド	サブネット。
[Default Gateway] フィールド	モジュールのデフォルト ゲートウェイ。

- ステップ 5** [Save Changes] をクリックして更新されたプロパティを保存します。

図 11 に、[Network Settings] タブの [Module Properties] 領域を示します。

図 11 ネットワーク設定



VLAN の設定

VLAN を設定するには、次の手順に従います。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2 [Admin] タブの [Network] をクリックします。
- ステップ 3 [Network] ペインの [VLAN Settings] タブをクリックします。
- ステップ 4 [VLAN Properties] 領域で、次のプロパティを更新します。

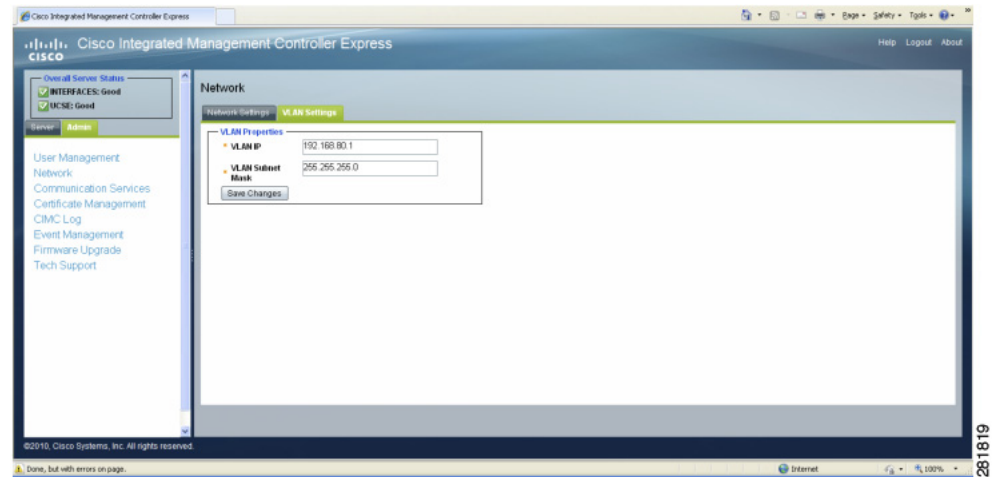
表 19 [VLAN Settings] フィールドの説明

名前	説明
[VLAN IP] フィールド	VLAN の IP アドレス。
[VLAN Subnet] フィールド	IP アドレスのサブネット。

- ステップ 5 [Save Changes] をクリックして更新されたプロパティを保存します。

図 12 に、VLAN プロパティを示します。

図 12 VLAN 設定



コミュニケーション サービスの設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「HTTP の設定」 (P.43)
- 「SSH の設定」 (P.44)
- 「クライアント情報の表示」 (P.45)
- 「HTTP 動作の再起動」 (P.45)

HTTP の設定

HTTP を設定するには、次の手順に従います。

手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2** [Admin] タブの [Communication Services] をクリックします。
- ステップ 3** [HTTP Properties] 領域の [Server Port] フィールドを更新します。図 13 に示すように、次のプロパティが表示されます。

表 20 [HTTP Properties] フィールドの説明

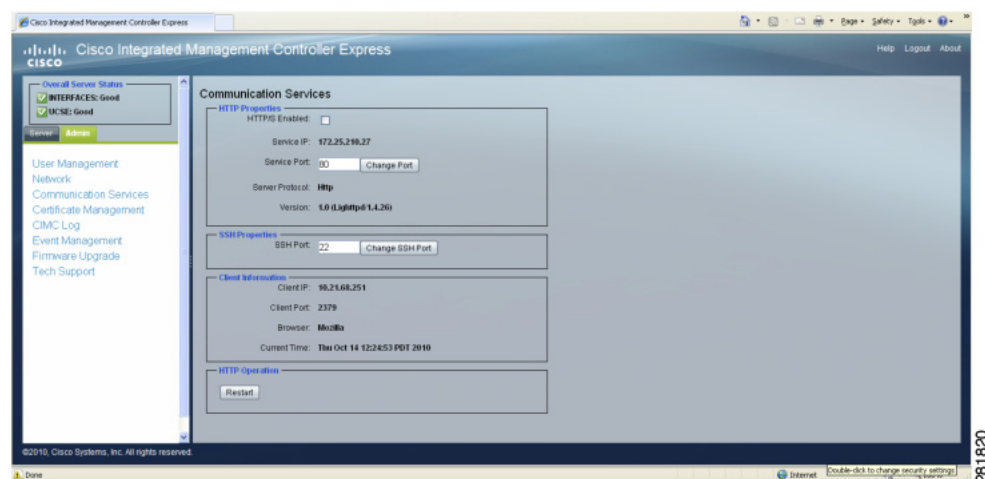
名前	説明
[HTTP/S Enabled] チェックボックス	HTTP および HTTPS が CIMC-E でイネーブルかディセーブルか。
Server IP	サーバの IP アドレス。

表 20 [HTTP Properties] フィールドの説明 (続き)

名前	説明
Service Port	HTTP および HTTPS 通信に使用するポート。デフォルトは 80 です。
Server Protocol	HTTP または HTTPS。
Version	プロトコルバージョン。

図 13 に、HTTP プロパティを示します。

図 13 [Communication Services] ペイン



SSH の設定

SSH を介して CIMC-E CLI インターフェイスへの接続に使用するポートを設定できます。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2 [Admin] タブの [Communication Services] をクリックします。
- ステップ 3 [SSH Properties] 領域の [SSH Port] フィールドを更新します。
- ステップ 4 [Change SSH Port] をクリックします。

クライアント情報の表示

クライアント情報を表示するには、次の手順に従います。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2 [Admin] タブの [Communication Services] をクリックします。
- ステップ 3 [Client Information] 領域で、次のプロパティを表示します。

表 21 [Client Information] フィールドの説明

名前	説明
Client IP	クライアントの IP アドレス。
Client Port	クライアントが HTTP および HTTPS 通信に使用するポート。デフォルトは 80 です。
Browser	クライアントのブラウザ。
Current Time	クライアントのシステム上の時刻。

HTTP 動作の再起動

HTTP 動作を再起動するには、次の手順に従います。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2 [Admin] タブの [Communication Services] をクリックします。
- ステップ 3 [HTTP Operation] 領域で [Restart] をクリックします。

証明書の管理

CIMC-E GUI は HTTPS プロトコルをサポートするので、HTTPS 接続を設定するには Privacy-Enhanced Mail (PEM) 証明書が必要です。次の項では、CIMC-E GUI で使用するサーバ証明書を取得する 2 つの方法について説明します。

- 「[デフォルトのシスコ証明書の使用](#)」(P.46) の手順に従って、デフォルトのシスコ証明書を使用できます。
- 独自の自己署名証明書を使用できます。「[自己署名証明書の作成](#)」(P.46) で始まる項を参照してください。



(注)

CIMC-E は、認証局 (CA) によって署名された証明書の使用をサポートしていません。

- 「デフォルトのシスコ証明書の使用」 (P.46)
- 「自己署名証明書の作成」 (P.46)
- 「サーバ証明書のアップロード」 (P.47)
- 「現在の証明書情報の表示」 (P.47)

デフォルトのシスコ証明書の使用

デフォルトのシスコ証明書を使用するには、次の手順に従います。

手順

-
- ステップ 1** [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
 - ステップ 2** [Admin] タブの [Certificate Management] をクリックします。
 - ステップ 3** [Actions] 領域で [Use Default Cisco Certificate] をクリックします。
-

自己署名証明書の作成

公共の認証局 (CA) を利用してサーバ証明書を生成および署名する代わりに、独自の自己署名証明書を使用できます。この項では、Linux で実行されている OpenSSL 証明書サーバを使用して自己署名証明書を生成するコマンドについて説明します。OpenSSL の詳細については、<http://www.openssl.org> を参照してください。



(注)

これらのコマンドは、CIMC-E CLI ではなく、OpenSSL パッケージを使用している Linux サーバで入力します。

はじめる前に

組織内のサーバで、証明書サーバのソフトウェア パッケージを取得してインストールします。

手順

Linux マシンで openssl を使用して、自己署名証明書を生成できます。そのためには、次のコマンドを入力します。

```
openssl genrsa -out key.pem 1024
openssl req -new -key key.pem -out request.pem [-batch]
openssl req -x509 -days 30 -key key.pem -in request.pem -out certificate.pem
cat key.pem certificate.pem > myNewKey.pem
```

次の作業

次の項の説明に従って、HTTPS 接続で使用する CIMC-E Web サーバに myNewKey.pem をアップロードします。

サーバ証明書のアップロード

独自のサーバ証明書を作成した場合は、GUI を使用してそのサーバ証明書をアップロードできます。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2 [Admin] タブの [Certificate Management] をクリックします。
- ステップ 3 [Actions] 領域で [Upload Server Certificate] をクリックします。

現在の証明書情報の表示

現在の証明書情報を表示するには、次の手順に従います。

手順


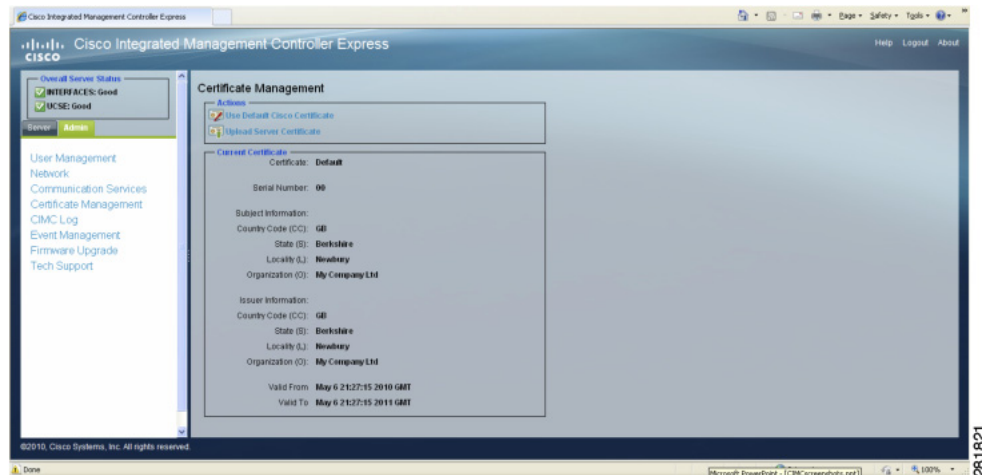
- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2 [Admin] タブの [Certificate Management] をクリックします。
- ステップ 3  14 に、[Current Certificate] 領域を示します。

図 14 [Certificate Management] ペイン



現在の証明書に関して次の情報を表示します。

表 22 [Current Certificate] フィールドの説明

名前	説明
Certificate	証明書名またはデフォルト。
Serial Number	証明書のシリアル番号。
Subject Information	
Country Code (CC)	会社が存在する国。
State (S)	証明書を要求している会社の本社が存在する州または行政区分。
Locality (L)	証明書を要求している会社の本社が存在する市または町。
Organization (O)	証明書を要求している組織。
Issuer Information	
Country Code (CC)	会社が存在する国。
State (S)	証明書を要求している会社の本社が存在する州または行政区分。
Locality (L)	証明書を要求している会社の本社が存在する市または町。
Organization (O)	証明書を要求している組織。
Valid From	証明書が有効になる日時。
Valid To	証明書が無効になる日時。

プラットフォーム イベント フィルタの設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「プラットフォーム イベント フィルタ」 (P.48)
- 「プラットフォーム イベント アラートのイネーブル化」 (P.49)
- 「プラットフォーム イベント アラートのディセーブル化」 (P.49)

プラットフォーム イベント フィルタ

プラットフォーム イベント フィルタ (PEF) は、アクションをトリガーしたり、ハードウェア関連の重要なイベントが発生したときはアラートを生成したりできます。PEF ごとに、プラットフォーム イベントが発生したときに実行するアクション (またはアクションを実行しないこと) を選択できます。また、プラットフォーム イベントが発生したときにアラートを生成して送信することもできます。アラートは SNMP トラップとして送信されるので、アラートを送信するには、先に SNMP トラップの宛先を設定する必要があります。

プラットフォーム イベント アラートの生成はグローバルにイネーブルまたはディセーブルにできます。ディセーブルにすると、PEF がアラートを送信するように設定されていても、アラートは送信されません。

プラットフォーム イベント アラートのイネーブル化

プラットフォーム イベント アラートをイネーブルにするには、次の手順に従います。

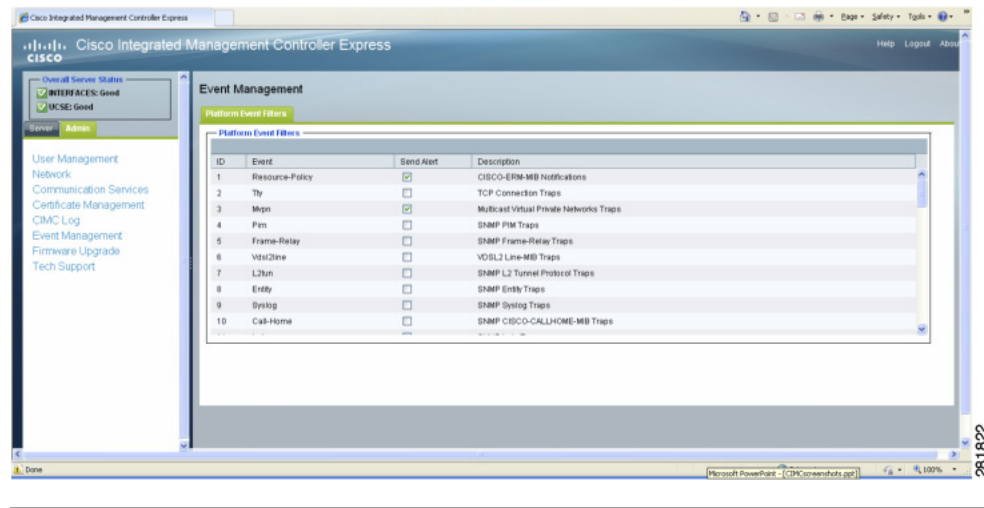
はじめる前に

プラットフォーム イベント アラートをイネーブルにするには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2 [Admin] タブの [Event Management] をクリックします。
- ステップ 3 図 15 に示す [Platform Event Filters] タブで、アラートを送信する各イベントの [Send Alert] チェックボックスをオンにします。

図 15 [Event Management] 画面



プラットフォーム イベント アラートのディセーブル化

プラットフォーム イベント アラートをディセーブルにするには、次の手順に従います。

はじめる前に

プラットフォーム イベント アラートをディセーブルにするには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2 [Admin] タブの [Event Management] をクリックします。

- ステップ 3** [Platform Event Filters] タブで、ディセーブルにする各イベントの [Send Alert] チェックボックスの選択を解除します。
-

CIMC-E ファームウェア管理

ここでは、次の内容について説明します。

- 「ファームウェアの概要」 (P.50)
- 「シスコからの CIMC-E ファームウェアの取得」 (P.50)
- 「CIMC-E ファームウェアのインストール」 (P.51)

ファームウェアの概要

シスコから新しいファームウェア イメージを取得した後、これを使ってサーバのファームウェアを更新できます。また、シスコでは各イメージのリリース ノートも提供しており、イメージを取得したのと同じ Web サイトから入手できます。



(注)

ファームウェアを更新するときは、古いバージョンのファームウェアを新しいバージョンのファームウェアにアップグレードすることも、新しいバージョンのファームウェアを古いバージョンのファームウェアにダウングレードすることもできます。

CIMC-E ファームウェアの更新は、他のモジュールの製品とは別に発生するプロセスであるため、これらのモジュールをシャットダウンする必要はありません。ファームウェアを更新すると、選択したファームウェア バージョンが CIMC-E によって Embedded Service Engine に転送されます。FTP サーバからファームウェアをインストールできます。Embedded Service Engine のファームウェアは、インストール プロセスによって常に上書きされます。

シスコからの CIMC-E ファームウェアの取得

シスコから CIMC-E ファームウェアを取得するには、次の手順に従います。

手順

-
- ステップ 1** Web ブラウザで、Cisco から提供されている Web リンクに移動して、サーバのファームウェア イメージを入手します。
- ステップ 2** 1 つ以上のファームウェア イメージを選択し、ネットワーク サーバにコピーします。
- ステップ 3** イメージ (複数可) とともに提供されているリリース ノートをお読みください。
-

次の作業

CIMC-E ファームウェアをサーバにインストールします。

CIMC-E ファームウェアのインストール

CIMC-E ファームウェアをインストールするには、次の手順に従います。

はじめる前に

- 「シスコからの [CIMC-E ファームウェアの取得](#) (P.50) の説明に従って、シスコから CIMC-E ファームウェアを取得します。
- ブラウザ経由で CIMC-E ファームウェアをインストールするには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順


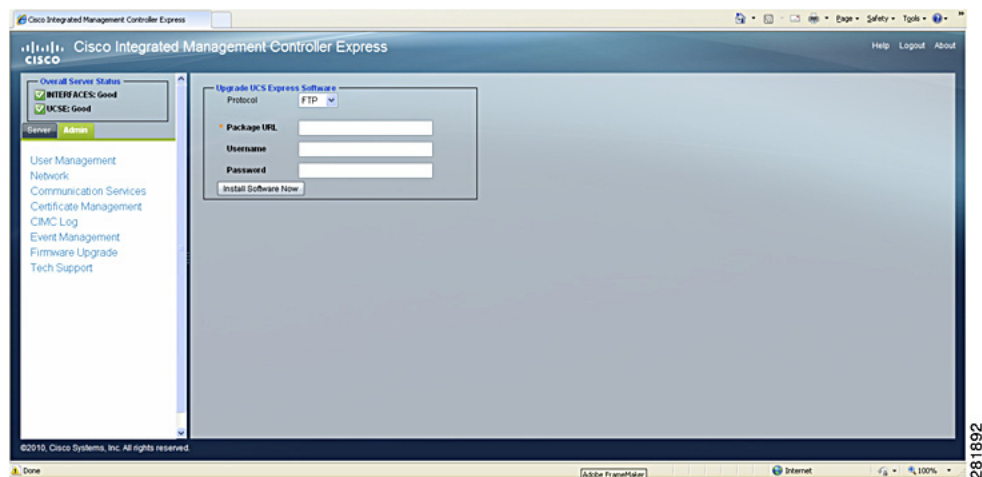
- ステップ 1** [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2** [Admin] タブの [Firmware Management] をクリックします。
- ステップ 3** [Actions] 領域で [Install CIMC-E Firmware through Browser Client] をクリックします。
- ステップ 4**  16 に示す [Install Firmware] ダイアログボックスで、次のいずれかの操作を実行します。
- [Browse] をクリックし、[Choose File] ダイアログボックスを使用してインストールするファームウェア イメージを選択します。
 - インストールするファームウェア イメージのフルパスとファイル名を入力します。

図 16 ファームウェアのアップグレード



- ステップ 5** [Install Firmware] をクリックします。

ログの表示

ここでは、次の内容について説明します。

- 「[CIMC-E ログ](#)」 (P.52)
- 「[System Event Log](#)」 (P.53)

CIMC-E ログ

CIMC-E ログを表示するには、次の手順を実行します。

手順


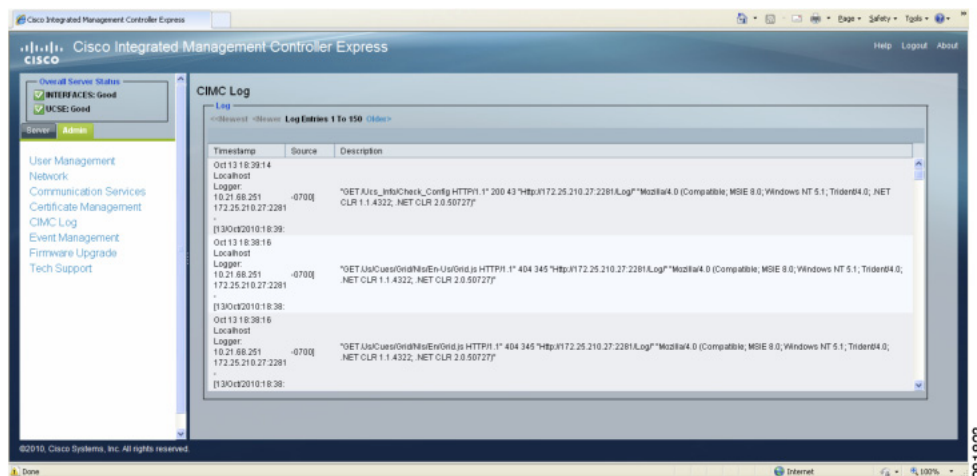
- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2 [Admin] タブの [CIMC Log] をクリックします。
- ステップ 3  17 に、CIMC-E ログを示します。

図 17 CIMC-E ログの例



ログの CIMC-E イベントごとに、次の情報を確認します。

表 23 CIMC-E ログ フィールドの説明

名前	説明
Timestamp	イベントが発生した日時。
Source	イベントをログに記録したソフトウェア モジュール。
Description	イベントの説明。

- ステップ 4 CIMC-E イベントのページを前方および後方に移動するには [<Newer] または [Older>] をクリックし、リストの先頭に移動するには [<<Newest] をクリックします。
デフォルトでは、最新の CIMC-E イベントがリストの先頭に表示されます。
- ステップ 5 カラムの見出し ([Timestamp]、[Source]、[Description]) をクリックして、そのカラムでログをソートします。

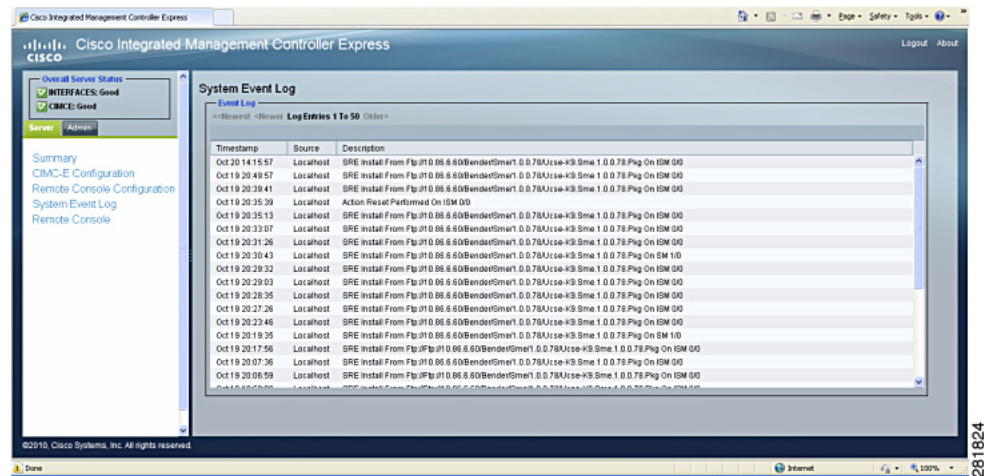
System Event Log

システム イベント ログには、ソフトウェアのインストール、リセットの実行、IP アドレスの変更など、管理対象モジュールに対して実行されたアクションが記録されます。システム イベント ログを表示するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインの [Server] タブをクリックします。
- ステップ 2** [Server] タブの [System Event Log] をクリックします。
- ステップ 3** 図 18 に、システム イベント ログを示します。

図 18 システム イベント ログの例



ログのシステム イベントごとに次の情報を確認します。

表 24 [System Event Log] フィールドの説明

名前	説明
Timestamp	イベントが発生した日時。
Source	イベントをログに記録したソフトウェアモジュール。
Description	イベントの説明。

- ステップ 4** CIMC-E イベントのページを前方および後方に移動するには [<Newer] または [Older>] をクリックし、リストの先頭に移動するには [<<Newest] をクリックします。
デフォルトでは、最新の CIMC-E イベントがリストの先頭に表示されます。
- ステップ 5** カラムの見出し ([Timestamp]、[Source]、[Description]) をクリックして、そのカラムでログをソートします。

サーバユーティリティ

ここでは、次の内容について説明します。

- 「テクニカル サポート データのエクスポート」 (P.54)
- 「CIMC-E の再起動」 (P.55)

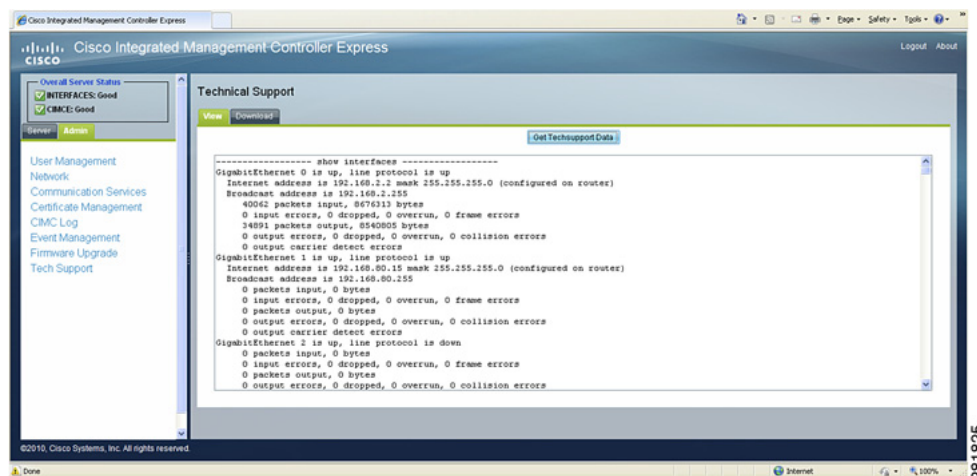
テクニカル サポート データのエクスポート

このタスクは、シスコのテクニカル サポートから要求された場合に実行します。このユーティリティは、テクニカル サポートが技術上の問題をトラブルシューティングおよび解決する際に役立つ設定情報、ログ、および診断データが含まれる要約レポートを作成します。

手順

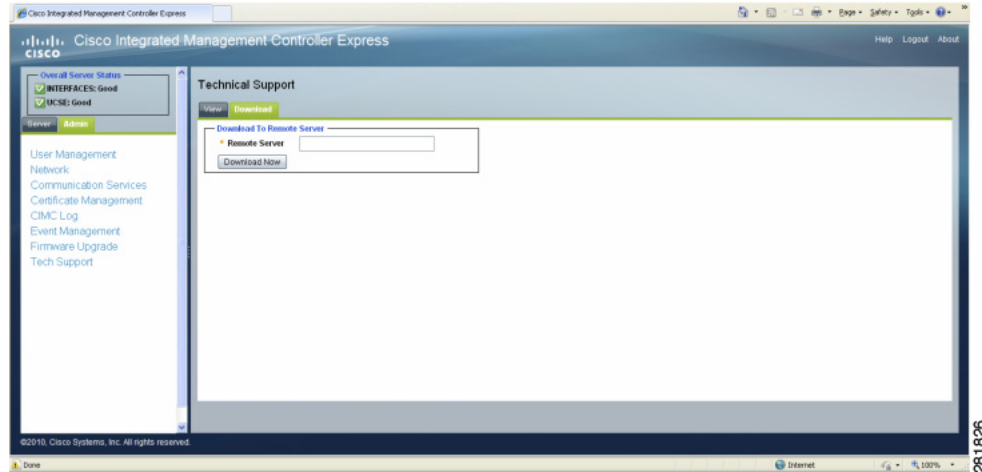
- ステップ 1** [Navigation] ペインの [Admin] タブをクリックします。
- ステップ 2** [Admin] タブの [Tech Support] をクリックします。
- ステップ 3** [View] タブの [Get Techsupport Data] をクリックします。図 19 に、テクニカル サポート データの例を示します。

図 19 テクニカル サポート データの取得



- ステップ 4** 図 20 に示す、[Download] タブをクリックします。

図 20 [Download] タブ



ステップ 5 [Download to Remote Server] 領域で、リモート サーバ名を入力します、

ステップ 6 [Download Now] をクリックします。

次の作業

生成されたレポート ファイルをシスコのテクニカル サポートに提供します。

CIMC-E の再起動

現在実行されているファームウェアで問題が発生した場合など、非常に珍しいケースですが、サーバのトラブルシューティング時に、CIMC-E の再起動が必要になることがあります。この手順は、通常のサーバメンテナンスには含まれません。CIMC-E を再起動した後にログオフすると、CIMC-E は数分間使用できません。

CIMC-E を再起動するには、次のコマンドを入力します。

```
Router# service-module embedded-service-engine 0/0 reload
```

```
Do you want to proceed with reload?[confirm]
```

CIMC-E コマンド リファレンス

このコマンドリファレンスでは、CIMC-E のコマンドについて説明します。CIMC-E コマンドにアクセスするには、サービス モジュールでセッションを開く必要があります。

次に示すコマンドは、新しいコマンド、または修正されたコマンドです。

Scope router

- [scope router](#)
- [show hardware](#)
- [show log](#)
- [set logbuffer](#)
- [set loglevel](#)
- [clear log](#)

Scope syslog

- [scope syslog](#)
- [create server](#)
- [show servers](#)
- [delete server](#)

Scope service-module

- [scope service-module](#)
- [scope module port](#)
- [reload](#)
- [reset](#)
- [show statistics](#)
- [show status \(service-module/module port\)](#)
- [shutdown](#)

Scope interface

- [scope interface](#)
- [show description](#)
- [show stat](#)
- [show summary](#)
- [scope interface port](#)
- [show status \(interface/interface port\)](#)
- [set ip](#)
- [set mask](#)
- [set module-gateway](#)
- [set module-ip](#)
- [set module-mask](#)

- `set power noshutdown`
- `set power shutdown`
- `set unnumbered-interface`

Scope user

- `scope user`
- `create username`
- `set password`
- `create permissions`
- `delete username`
- `delete permissions`
- `show all`
- `show username`
- `show permissions`

Scope cimce

- `scope cimce`
- `set url`
- `set username`
- `set password`
- `set sshport`
- `show config`
- `show logs`
- `show log (cimce)`
- `show sshport`
- `tail`

Scope http

- `scope http`
- `set port`
- `set ssl enable`
- `set ssl disable`
- `set cert default`
- `show port`
- `show ssl`
- `show status (cimce/http)`
- `shutdown (cimce/http)`
- `start (cimce/http)`
- `restart (cimce/http)`
- `upload cert url`

Scope syslog

- **scope syslog** (cimce)
- **set server**
- **set syslog disable**
- **show server** (cimce/syslog)

scope router

ルータ モードを開始するには、**scope tacacs** コマンドを使用します。

scope router**構文の説明**

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ルータ (/router)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ルータ モードは、ルータ プロパティの設定、システム情報の表示、コンソールでのコマンドの入力に使用します。

例

次に、ルータ モードを開始する例を示します。

```
Router# scope router
router /router #
```

show hardware

ルータのハードウェア仕様を表示するには、ルータ モードで **show hardware** コマンドを使用します。

show hardware

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ルータ (/router)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

例

次に、ルータのハードウェア仕様を表示する例を示します。

```
router /router # show hardware
```

```
Cisco IOS Software, C2900 Software (C2900-UNIVERSALK9-M), Experimental Version  
15.1(20100215:211240) [jqvan-tb18 200]  
Cisco CISCO2911/K9 (revision 1.0) with 745472K/40960K bytes of memory.  
Chassis Serial Number      : FTX1405A1Z5  
Chassis MAC Address        : 0000.e181.5150
```

show log

システム ログを表示するには、ルータ モードで **show log** コマンドを使用します。

show log

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

ルータ (/router)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

例

次に、システム ログを表示する例を示します。

```
router /router # show log

Log Buffer (4096 bytes):
May 14 14:51:30.554: %SYS-6-LOGGINGHOST_STARTSTOP: Logging to host 192.1.1.60 port 514
stopped - CLI initiated
May 14 14:51:57.842: %SYS-6-LOGGINGHOST_STARTSTOP: Logging to host 192.1.1.60 port 514
stopped - CLI initiated
May 14 14:51:58.842: %SYS-6-LOGGINGHOST_STARTSTOP: Logging to host 192.168.24.4 port 514
started - CLI initiated
May 14 14:52:04.862: %SYS-6-LOGGINGHOST_STARTSTOP: Logging to host 192.168.24.4 port 514
stopped - CLI initiated
May 16 01:47:22.502: %SECONDCORE-5-BOOTSTAGE: CPU on 2nd core SHUTDOWN
May 16 01:47:22.542: %SECONDCORE-5-BOOTSTAGE: ROMMON on 2nd core UP
May 16 01:47:23.022: %SECONDCORE-5-BOOTSTAGE: UBOOT on 2nd core UP
May 16 01:57:22.542: %SECONDCORE-5-BOOTSTAGE: CPU on 2nd core SHUTDOWN
May 16 01:57:22.586: %SECONDCORE-5-BOOTSTAGE: ROMMON on 2nd core UP
May 16 01:57:23.062: %SECONDCORE-5-BOOTSTAGE: UBOOT on 2nd core UP
May 17 14:09:45.261: %SECONDCORE-5-BOOTSTAGE: KERNEL on 2nd core UP
May 17 14:09:46.521: %LINK-3-UPDOWN: Interface Embedded-Service-Engine0/0, changed state
to down
May 17 14:09:47.521: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface
Embedded-Service-Engine0/0, changed state to down
May 17 14:10:33.913: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface
Embedded-Service-Engine0/0, changed state to up
May 17 14:42:27.825: %SECONDCORE-5-BOOTSTAGE: KERNEL on 2nd core SAFE FOR RESET
May 17 14:42:27.825: %SECONDCORE-5-BOOTSTAGE: CPU on 2nd core SHUTDOWN
May 17 14:42:29.825: %LINK-3-UPDOWN: Interface Embedded-Service-Engine0/0, changed state
to down
May 17 14:42:30.825: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface
Embedded-Service-Engine0/0, changed state to down
May 17 14:42:37.865: %SECONDCORE-5-BOOTSTAGE: ROMMON on 2nd core UP
May 17 14:42:38.345: %SECONDCORE-5-BOOTSTAGE: UBOOT on 2nd core UP
May 17 14:42:39.241: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface
Embedded-Service-Engine0/0, changed state to up
May 17 14:43:29.133: %SECONDCORE-5-BOOTSTAGE: KERNEL on 2nd core UP
May 17 14:43:30.009: %LINK-3-UPDOWN: Interface Embedded-Service-Engine0/0, changed state
to down
```

```
May 17 14:43:31.009: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface
Embedded-Service-Engine0/0, changed state to down
May 17 14:44:16.437: %LINEPROTO-5-UPDOWN: Line protocol on Interface
Embedded-Service-Engine0/0, changed state to up
```

set logbuffer

ログバッファのサイズを設定するには、ルータモードで **set logbuffer** コマンドを使用します。

set logbuffer *number*

構文の説明	<i>number</i>	ログバッファのサイズ (バイト)。4096 以上、2147483648 以下でなければなりません。
コマンドデフォルト	4096	
コマンドモード	ルータ (/router)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.0	このコマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	変更を保存するには、 commit コマンドを入力する必要があります。	
例	次に、ログバッファのサイズを 8192 バイトに設定する例を示します。 <pre>router /router # set logbuffer 8192 router /router # commit Configuration updated successfully.</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	commit	設定変更を保存します。

set loglevel

ロギングのレベルを設定するには、ルータ モードで **set loglevel** コマンドを使用します。

set loglevel [0-7 | level]

構文の説明

0-7 | level

ロギングのレベル。次のいずれかの番号、または対応する単語である必要があります。

- 0 (emergencies) : すべての緊急メッセージを保存します。
- 1 (alerts) : 早急に対応する必要があるアクティビティ、およびそれ以上に重大度が高いすべてのアクティビティを保存します。
- 2 (critical) : すべてのクリティカルな状態、およびそれ以上に重大度が高い状態を保存します。
- 3 (errors) : すべてのエラー メッセージ、およびそれ以上に重大度が高いメッセージを保存します。
- 4 (warnings) : すべての警告メッセージ、およびそれ以上に重大度が高いメッセージを保存します。
- 5 (notifications) : すべての通知メッセージ、およびそれ以上に重大度が高いメッセージを保存します。
- 6 (informational) : 利用可能なすべてのロギング メッセージを保存します。
- 7 (debugging) : 利用可能なすべてのデバッグ メッセージを保存します。

コマンド デフォルト

3 (errors)

コマンド モード

ルータ (/router)

コマンド履歴

リリース

変更内容

1.0

このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

特定のログ レベルを設定すると、設定されたレベル以下のメッセージが保存されます。たとえば、ログ レベルを 5 (notifications) に設定すると、ログ レベル 4 以下のメッセージを生成するすべてのイベントがログ ファイルに書き込まれます。

ロギング システムのログ レベルは、対処の必要な可能性のあるログ問題の緊急度を識別するのに使用されます。0 (emergencies) が重大度が最も高く、6 (informational) が最も重大度の低いロギング レベルの設定であり、大部分の情報ログ メッセージが保存されます。

変更を保存するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。

例

次に、ログ レベルを 7 バイトに設定する例を示します。

```
router /router # set loglevel 7
router /router # commit
Configuration updated successfully.
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	設定変更を保存します。

clear log

システム ログをクリアするには、ルータ モードで **clear log** コマンドを使用します。

clear log

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ルータ (/router)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

例

次に、システム ログをクリアする例を示します。

```
router /router # clear log
The operation completed successfully.
```

scope syslog

Syslog モードを開始するには、**scope syslog** コマンドを使用します。

scope syslog

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Syslog (/router/syslog)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

Syslog モードを使用して、Syslog サーバを設定および管理します。

例

次に、ルータ モードを開始する例を示します。

```
Router# scope router
router /router # scope syslog
router /router/syslog #
```


create server

Syslog サーバを作成するには、Syslog モードで **create server** コマンドを使用します。

create server *ip-address*

構文の説明

<i>ip-address</i>	Syslog サーバの IP アドレス。
-------------------	----------------------

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Syslog (/router/syslog)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

例

次に、IP アドレス 172.1.1.60 の Syslog サーバを作成する例を示します。

```
router /router/syslog # create server 172.1.1.60  
Configuration updated successfully.
```

show servers

Syslog サーバに関する情報を表示するには、Syslog モードで **show servers** コマンドを使用します。

show servers

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

Syslog (/router/syslog)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

例

次に、システム ログを表示する例を示します。

```
router /router/syslog # show servers
Logging to 192.1.1.60 (udp port 514, audit disabled,
authentication disabled, encryption disabled, link down),
0 message lines logged,
0 message lines rate-limited,
0 message lines dropped-by-MD,
xml disabled, sequence number disabled
filtering disabled
```

delete server

Syslog サーバを削除するには、Syslog モードで **delete server** コマンドを使用します。

delete server *ip-address*

構文の説明

<i>ip-address</i>	削除する Syslog サーバの IP アドレス。
-------------------	---------------------------

コマンドモード

Syslog (/router/syslog)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

例

次に、Syslog サーバを削除する例を示します。

```
router /router/syslog # delete server 172.1.1.60
Configuration updated successfully.
```

scope service-module

サービス モジュール モードを開始するには、**service-module** コマンドを使用します。

scope service-module

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

サービス モジュール (/service-module)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

サービス モジュール モードは、サービス モジュール プロパティの設定、システム情報の表示、コンソールでのコマンドの入力に使用します。

例

次に、サービス モジュール モードを開始する例を示します。

```
Router# scope service-module
router /service-module #
```

scope module port

module port モードを開始するには、サービス モジュール モードで **scope module port** コマンドを使用します。

scope module port

構文の説明

<i>module</i>	ISM または SM。
<i>port</i>	ISM または SM のスロット/ポート。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

module port (/service-module/*module port*)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

サービス モジュールの *module port* モードを使用して、指定した *slot/port* でサービス モジュールのプロパティを設定し、情報を表示します。

例

次に、サービス モジュールの *module port* モードを開始する例を示します。

```
router /service-module # scope ism 0/0
router /service-module/ISM 0/0 #
```

reload

指定したポートのサービス モジュールの通常シャットダウンおよび再起動を実行するには、サービス モジュールの *module port* モードで **reload** コマンドを使用します。

reload

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

サービス モジュールの *module port* (*/service-module/module port*)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

確認プロンプトで、**Enter** キーを押して操作を確認するか、**n** と入力してキャンセルします。

例

次に、オペレーティング システムを通常にシャットダウンおよび再起動する例を示します。

```
router /service-module/ISM 0/0# reload
```

reset

指定したポートのサービス モジュールをリセットするには、サービス モジュールの *module port* モードで **reset** コマンドを使用します。

reset

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

サービス モジュールの *module port* (/service-module/module port)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

確認プロンプトで、**Enter** キーを押して操作を確認するか、**n** と入力してキャンセルします。



注意

データを消失する可能性があるため、**reset** コマンドは、シャットダウンまたは障害状態から回復する目的に限り使用してください。

例

次に、サービス モジュール ハードウェアをリセットする例を示します。

```
router /service-module/ISM 0/0# reset
```

```
Use reset only to recover from shutdown or failed state
```

```
Warning: May lose data on the NVRAM, nonvolatile file system or unsaved configuration!
```

show statistics

指定したポートのサービス モジュールのリセット情報およびリロード情報を表示するには、サービス モジュールの *module port* モードで **show statistics** コマンドを使用します。

show statistics

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

サービス モジュールの *module port* (*/service-module/module port*)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

例

次に、0/0 ポートの Cisco ISM の統計情報を表示する例を示します。

```
router /service-module/ISM 0/0# show statistics
```

```
Module Reset Statistics:
CLI reset count = 0
CLI reload count = 1
Registration request timeout reset count = 0
Error recovery timeout reset count = 0
Module registration count = 3
The last IOS initiated event was a cli reload at *19:31:00.318 UTC Fri Jul 30 20 10
```


show status (service-module/module port)

指定したポートのサービス モジュールのステータス情報を表示するには、サービス モジュールの *module port* モードで **show status** コマンドを使用します。

show status

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

サービス モジュールの *module port* (/service-module/module port)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、次を実行します。

- サービス モジュールのソフトウェア リリース バージョンの表示
- サービス モジュール ステータスの確認 (定常またはダウン)
- CPU、メモリ、インターフェイス情報などのサービス モジュールのハードウェア情報の表示

例

次に、0/0 ポートの Cisco ISM のステータス情報を表示する例を示します。

```
router /service-module/ISM 0/0 # show status

Service Module is Cisco Embedded-Service-Engine0/0
Service Module supports session via TTY line 2
Service Module is in Steady state
Service Module heartbeat-reset is enabled
Getting status from the Service Module, please wait..

Cisco CIMC-E Software 1.0
UCSE Running on VSEM
Embedded Service Engine boot state is KERNEL UP

Module resource information:
CPU Frequency: 500 MHz
Memory Size: 256 MB
Disk Size: 488 MB

No install/uninstall in progress
```

shutdown

Embedded Service Engine サービス モジュールを正常にシャットダウンするには、サービス モジュールの *module port* モードで **shutdown** コマンドを使用します。

shutdown

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

サービス モジュールの *module port* (*/service-module/module port*)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

確認プロンプトで、**Enter** キーを押して操作を確認するか、**n** と入力してキャンセルします。

このコマンドは、ハード ドライブを保護するために、指定したサービス モジュールのオペレーティング システムを正しい方法で停止します。システムをシャットダウンすると、モジュールをルータから削除できます。

例

次に、サービス モジュールを正常にシャットダウンする例を示します。

```
router /service-module/ISM 0/0 # shutdown
```

```
Shutdown is used for Online removal of Service Module.
Use service module reset command to recover from shutdown.
```

```
WARNING: Confirm that the service-module status shows 'is Shutdown' before removing the
module or powering off the system !
```

scope interface

インターフェイス モードを開始するには、**scope interface** コマンドを使用します。

scope interface

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス (/interface)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

インターフェイス モードは、インターフェイス プロパティの設定、インターフェイス情報の表示、コンソールでのコマンドの入力に使用します。

例

次に、インターフェイス モードを開始する例を示します。

```
Router # scope interface  
router /interface #
```

show description

インターフェイスの説明を表示するには、インターフェイス モードで **show description** コマンドを使用します。

show description

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

インターフェイス (/interface)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、インターフェイスに関する情報を表示します。

例

次に、インターフェイスの説明を表示する例を示します。

```
router /interface # show description
```

Interface	Status	Protocol	Description
Em0/0	up	up	
Gi0/0	up	up	\$ETH-LAN\$\$ETH-SW-LAUNCH\$\$INTF-INFO-GE 0/0\$
Gi0/1	admin down	down	
Gi0/2	admin down	down	

show stat

インターフェイスの統計情報を表示するには、インターフェイス モードで **show stat** コマンドを使用します。

show stat

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

インターフェイス (/interface)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、インターフェイスのパフォーマンス統計情報およびステータス情報を表示します。

例

次に、インターフェイスの統計情報を表示する例を示します。

```
cimce/interface # show stat

Embedded-Service-Engine0/0
  Switching path  Pkts In   Chars In   Pkts Out   Chars Out
  Processor        250       33014      169        52830
  Route cache      8927      2643609    8170       994438
  Total            9177      2676623    8339       1047268
GigabitEthernet0/0
  Switching path  Pkts In   Chars In   Pkts Out   Chars Out
  Processor        1316      94523      1338       143909
  Route cache      8170      994438     8921       2643089
  Total            9486     1088961    10259      2786998
Interface GigabitEthernet0/1 is disabled
Interface GigabitEthernet0/2 is disabled
```

show summary

インターフェイスのサマリー情報を表示するには、インターフェイス モードで **show summary** コマンドを使用します。

show summary

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

インターフェイス (/interface)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、インターフェイスのサマリー情報を表示します。

例

次に、インターフェイスのサマリー情報を表示する例を示します。

```
router /interface # show summary
```

```
*: interface is up
IHQ: pkts in input hold queue      IQD: pkts dropped from input queue
OHQ: pkts in output hold queue     OQD: pkts dropped from output queue
RXBS: rx rate (bits/sec)           RXPS: rx rate (pkts/sec)
TXBS: tx rate (bits/sec)           TXPS: tx rate (pkts/sec)
TRTL: throttle count

  Interface                IHQ      IQD      OHQ      OQD      RXBS      RXPS      TXBS      TXPS      TRTL
-----
*Embedded-Service-Engine0/0  0         0         0         1         0         0         0         0         0
*GigabitEthernet0/0         0         0         0         0         0         0         0         0         0
GigabitEthernet0/1         0         0         0         0         0         0         0         0         0
GigabitEthernet0/2         0         0         0         0         0         0         0         0         0
```

scope *interface port*

interface port モードを開始するには、インターフェイス モードで **scope interface port** コマンドを使用します。

scope interface port

構文の説明

<i>interface</i>	GigabitEthernet、ISM、または SM。
<i>port</i>	GigabitEthernet、ISM、または SM のスロット/ポート。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

interface port (/interface/*interface port*)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

interface port モードを使用して、指定した *interface port* のプロパティを設定し、情報を表示します。

例

次に、インターフェイス *interface port* モードを開始する例を示します。

```
router /interface # scope ISM 0/0
router /interface/ISM 0/0 #
```

show status (interface/interface port)

インターフェイス上のハードウェアおよびソフトウェアに関する設定情報を表示するには、インターフェイス *interface port* モードで **show status** コマンドを使用します。

show status

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

インターフェイス *interface port* (/interface/module port)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

例

次に、0/0 ポートの Cisco ISM のステータス情報を表示する例を示します。

```
router /interface/ISM 0/0 # show status

ISM0/0 is administratively down, line protocol is down
Hardware is PSE2, address is 0000.e198.8230 (bia 0000.e198.8230)
Internet address is 4.4.4.4/24
MTU 1500 bytes, BW 1000000 Kbit/sec, DLY 10 usec,
    reliability 255/255, txload 1/255, rxload 1/255
Encapsulation ARPA, loopback not set
Keepalive set (10 sec)
Full Duplex, 1Gbps, media type is internal
output flow-control is XON, input flow-control is XON
ARP type: ARPA, ARP Timeout 04:00:00
Last input 00:00:03, output 00:00:03, output hang never
Last clearing of "show interface" counters never
Input queue: 0/75/0/0 (size/max/drops/flushes); Total output drops: 0
Queueing strategy: fifo
Output queue: 0/60 (size/max)
5 minute input rate 0 bits/sec, 0 packets/sec
5 minute output rate 0 bits/sec, 0 packets/sec
 125119 packets input, 10774946 bytes, 0 no buffer
  Received 55319 broadcasts (0 IP multicasts)
   0 runts, 0 giants, 0 throttles
   0 input errors, 0 CRC, 0 frame, 0 overrun, 0 ignored
   0 watchdog, 0 multicast, 0 pause input
 13304 packets output, 4252490 bytes, 0 underruns
   0 output errors, 0 collisions, 6 interface resets
   0 unknown protocol drops
   0 babbles, 0 late collision, 0 deferred
   0 lost carrier, 0 no carrier, 0 pause output
   0 output buffer failures, 0 output buffers swapped out

ISM0/0 is administratively down, line protocol is down
Hardware is PSE2, address is 0000.e198.8230 (bia 0000.e198.8230)
Internet address is 4.4.4.4/24
MTU 1500 bytes, BW 1000000 Kbit/sec, DLY 10 usec,
    reliability 255/255, txload 1/255, rxload 1/255
Encapsulation ARPA, loopback not set
```



```
Keepalive set (10 sec)
Full Duplex, 1Gbps, media type is internal
output flow-control is XON, input flow-control is XON
ARP type: ARPA, ARP Timeout 04:00:00
Last input 00:00:03, output 00:00:03, output hang never
Last clearing of "show interface" counters never
Input queue: 0/75/0/0 (size/max/drops/flushes); Total output drops: 0
Queueing strategy: fifo
Output queue: 0/60 (size/max)
5 minute input rate 0 bits/sec, 0 packets/sec
5 minute output rate 0 bits/sec, 0 packets/sec
 125119 packets input, 10774946 bytes, 0 no buffer
  Received 55319 broadcasts (0 IP multicasts)
  0 runts, 0 giants, 0 throttles
  0 input errors, 0 CRC, 0 frame, 0 overrun, 0 ignored
  0 watchdog, 0 multicast, 0 pause input
 13304 packets output, 4252490 bytes, 0 underruns
  0 output errors, 0 collisions, 6 interface resets
  0 unknown protocol drops
  0 babbles, 0 late collision, 0 deferred
  0 lost carrier, 0 no carrier, 0 pause output
  0 output buffer failures, 0 output buffers swapped out
```

set ip

インターフェイスの IP アドレスを設定するには、インターフェイス *interface port* モードで **set ip** コマンドを使用します。

set ip ip-address [unnumbered]

構文の説明

<i>ip-address</i>	インターフェイスの IP アドレス。
unnumbered	明示的な IP アドレスをインターフェイスに割り当てずにインターフェイス上の IP 処理をイネーブルにします。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

インターフェイス *interface port* (/interface/module port)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

set ip コマンドと **set mask** コマンドは、同時に入力する必要があります。一方のコマンドのみの入力は、サポートされていません。**unnumbered** キーワードを使用する場合には、**set unnumbered-interface** コマンドを入力して、割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイスを指定する必要があります。コマンドを入力する順序は関係ありません。**commit** コマンドを入力する前に、両方のコマンドが入力されていない場合は、エラーメッセージが表示されます。変更を保存するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。

例

次に、ISM 0/0 インターフェイス上に IP アドレスとマスクを設定する例を示します。

```
router /interface/ISM 0/0 # set ip 10.0.0.100
router /interface/ISM 0/0 *# set mask 255.255.255.0
router /interface/ISM 0/0 *# commit
Configuration updated successfully.
```

次に、アンナンバード インターフェイスを作成する例を示します。

```
router /interface/SM 2/0 # set ip unnumbered
router /interface/SM 2/0* # set unnumbered-interface GigabitEthernet0/0
router /interface/SM 2/0* # commit
Configuration updated successfully.
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	設定変更を保存します。

コマンド	説明
set mask	インターフェイスのマスクを設定します。
set unnumbered-interface	明示的な IP アドレスをインターフェイスに割り当てずにインターフェイス上の IP 処理をイネーブルにします。

set mask

インターフェイスのマスクを設定するには、インターフェイス *interface port* モードで **set mask** コマンドを使用します。

set mask *mask*

構文の説明

<i>mask</i>	インターフェイスのマスク。
-------------	---------------

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

インターフェイス *interface port* (/interface/module port)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

set ip コマンドと **set mask** コマンドは、同時に入力する必要があります。一方のコマンドのみの入力、サポートされていません。コマンドを入力する順序は関係ありません。**commit** コマンドを入力する前に、両方のコマンドが入力されていない場合は、エラーメッセージが表示されます。変更を保存するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。

例

次に、ISM 0/0 インターフェイス上に IP アドレスとマスクを設定する例を示します。

```
router /interface/ISM 0/0 # set ip 10.0.0.100
router /interface/ISM 0/0 *# set mask 255.255.255.0
router /interface/ISM 0/0 *# commit
Configuration updated successfully.
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	設定変更を保存します。
set ip	インターフェイスの IP アドレスを設定します。

set module-gateway

インターフェイスのゲートウェイ IP アドレスを設定するには、インターフェイス *interface port* モードで **set module-gateway** コマンドを使用します。

set module-gateway ip-address

構文の説明

ip-address モジュール ゲートウェイの IP アドレス。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス *interface port* (/interface/module port)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ゲートウェイは、インターフェイスから到達可能である必要があります。

例

次に、ISM 0/0 インターフェイス上にゲートウェイ IP アドレスを設定する例を示します。

```
router /interface/ISM 0/0 # set module-gateway 172.168.1.1
router /interface/ISM 0/0 *# commit
Configuration updated successfully.
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	設定変更を保存します。

set module-ip

モジュールの IP アドレスを設定するには、インターフェイス *interface port* モードで **set module-ip** コマンドを使用します。

set module-ip *ip-address*

構文の説明

<i>ip-address</i>	インターフェイスの IP アドレス。
-------------------	--------------------

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス *interface port* (/interface/module port)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

set module-ip コマンドと **set module-mask** コマンドは、同時に入力する必要があります。一方のコマンドのみの入力、サポートされていません。コマンドを入力する順序は関係ありません。**commit** コマンドを入力する前に、両方のコマンドが入力されていない場合は、エラーメッセージが表示されます。変更を保存するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。

例

次に、ISM 0/0 インターフェイス上に IP アドレスとマスクを設定する例を示します。

```
router /interface/ISM 0/0 # set module-mask 255.255.255.0
router /interface/ISM 0/0 *# set module-ip 172.168.1.101
router /interface/ISM 0/0 *# commit
Configuration updated successfully.
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	設定変更を保存します。
set module-mask	モジュールのマスクを設定します。

set module-mask

モジュールのマスクを設定するには、インターフェイス *interface port* モードで **set module-mask** コマンドを使用します。

set module-mask *mask*

構文の説明

mask インターフェイスのマスク。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス *interface port* (/interface/module port)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

set module-ip コマンドと **set module-mask** コマンドは、同時に入力する必要があります。一方のコマンドのみの入力、サポートされていません。コマンドを入力する順序は関係ありません。**commit** コマンドを入力する前に、両方のコマンドが入力されていない場合は、エラーメッセージが表示されます。変更を保存するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。

例

次に、ISM 0/0 インターフェイス上に IP アドレスとマスクを設定する例を示します。

```
router /interface/ISM 0/0 # set module-mask 255.255.255.0
router /interface/ISM 0/0 *# set module-ip 172.168.1.101
router /interface/ISM 0/0 *# commit
Configuration updated successfully.
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	設定変更を保存します。
set module-ip	モジュールの IP アドレスを設定します。

set power noshutdown

インターフェイスの電源をオンにするには、インターフェイス *interface port* モードで **set power noshutdown** コマンドを使用します。

set power noshutdown

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

インターフェイス *interface port* (/interface/module port)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

変更を保存するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。

例

次に、ISM 0/0 インターフェイスの電源をオンにする例を示します。

```
router /interface/ISM 0/0 # set power noshutdown
router /interface/ISM 0/0 *# commit
Configuring power for interface ISM 0/0
Configuration updated successfully.
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	設定変更を保存します。

set power shutdown

インターフェイスの電源をオフにするには、インターフェイス *interface port* モードで **set power shutdown** コマンドを使用します。

set power shutdown

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス *interface port* (/interface/module port)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

変更を保存するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。

例

次に、ISM 0/0 インターフェイスの電源をオフにする例を示します。

```
router /interface/ISM 0/0 # set power shutdown
router /interface/ISM 0/0 *# commit
Configuring power for interface ISM 0/0
Configuration updated successfully.
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	設定変更を保存します。

set unnumbered-interface

明示的な IP アドレスをインターフェイスに割り当てずにインターフェイス上の IP 処理をイネーブルにするには、インターフェイス *interface port* モードで **set unnumbered-interface** コマンドを使用します。

set unnumbered-interface type number

構文の説明

<i>type</i>	割り当てられた IP アドレスをルータが保持しているインターフェイス。このインターフェイスをアンナンバード インターフェイスにすることはできません。詳細については、疑問符 (?) オンライン ヘルプ機能を使用します。
<i>number</i>	インターフェイスまたはサブインターフェイスの番号。ネットワーキング デバイスに対する番号付け構文の詳細については、疑問符 (?) のオンライン ヘルプ機能を使用してください。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

インターフェイス *interface port* (/interface/module port)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、**unnumbered** キーワードを指定した **set ip** コマンドと組み合わせて使用する必要があります。アンナンバード インターフェイスにマスクを指定する必要はありません、コマンドを入力する順序は関係ありません。**commit** コマンドを入力する前に、両方のコマンドが入力されていない場合は、エラー メッセージが表示されます。

変更を保存するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。

例

次に、アンナンバード インターフェイスを作成する例を示します。

```
router /interface/SM 2/0 # set ip unnumbered
router /interface/SM 2/0* # set unnumbered-interface GigabitEthernet0/0
router /interface/SM 2/0* # commit
Configuration updated successfully.
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	設定変更を保存します。
set ip	インターフェイスの IP アドレスを設定します。

scope user

ユーザ モードを開始するには、**scope user** コマンドを使用します。

scope user

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ユーザ (/user)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

次の方法でユーザが制限されていることに注意する必要があります。

- 初期起動時には、唯一のユーザとして **admin** が存在します。パスワードは、「password」です。
- **admin** だけが新しいユーザを作成できます。
- **admin** だけが既存のユーザを削除できます。
- **admin** を削除することはできません。
- あるユーザ **userA** が存在する場合、**userA** のパスワードは、**userA** と **admin** だけが変更できます。

例

次に、ユーザ モードを開始する例を示します。

```
Router# scope user
router /user #
```

create username

ユーザを作成してユーザ *username* モードを開始するには、ユーザ モードで **create username** コマンドを使用します。

create username *username*

構文の説明

<i>username</i>	新しいユーザのユーザ名。
-----------------	--------------

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

ユーザ (/user)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

次の方法でユーザが制限されていることに注意する必要があります。

- 初期起動時には、唯一のユーザとして **admin** が存在します。パスワードは、「password」です。
- **admin** だけが新しいユーザを作成できます。
- **admin** だけが既存のユーザを削除できます。
- **admin** を削除することはできません。
- あるユーザ **userA** が存在する場合、**userA** のパスワードは、**userA** と **admin** だけが変更できます。

変更を保存するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。

ユーザ名を作成する場合、**set password** コマンドを使用してパスワードを作成する必要があります。

例

次に、ユーザを作成する例を示します。

```
router /user # create username myuser
router /user/username cisco *# set password mypassword
router /user/username cisco *# commit
User myuser successfully added.
Password for user myuser successfully updated.
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	設定変更を保存します。
set password	ユーザ名のパスワードを設定します。

set password

ユーザ名のパスワードを設定するには、ユーザ *username* モードで **set password** コマンドを使用します。

```
set password password
```

構文の説明	<i>password</i>	ユーザ名のパスワード。
-------	-----------------	-------------

コマンド デフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	ユーザ <i>username</i> (/user/ <i>username</i>)
----------	---

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン あるユーザ *userA* が存在する場合、*userA* のパスワードは、*userA* と *admin* だけが変更できます。変更を保存するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。

例 次に、*myuser* ユーザのパスワードを設定する例を示します。

```
router /user # scope username myuser
router /user/username myuser # set password newpass
router /user/username myuser *# commit
Password for user myuser successfully updated.
```

関連コマンド	コマンド	説明
	commit	設定変更を保存します。

create permissions

ユーザ名の権限を作成するには、ユーザ *username* モードで **create permissions** コマンドを使用します。

create permissions *module port*

構文の説明

<i>module</i>	ISM または SM。
<i>port</i>	ISM または SM のスロット/ポート。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

ユーザ *username* (/user/*username*)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、指定したモジュールおよびポートを設定するユーザ権限を付与します。

例

次に、myuser ユーザの権限を作成する例を示します。

```
router /user # scope username myuser
router /user/username myuser # create permissions SM 1/0
Permission successfully added.
```

delete username

ユーザを削除するには、ユーザ モードで **delete username** コマンドを使用します。

delete username *username*

構文の説明

<i>username</i>	削除するユーザ名。
-----------------	-----------

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ユーザ (/user)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

変更を保存するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。

例

次に、myuser ユーザを削除する例を示します。

```
router /user # delete username myuser
router /user *# commit
User myuser successfully deleted.
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	設定変更を保存します。

delete permissions

ユーザの権限を削除するには、ユーザ *username* モードで **delete permissions** コマンドを使用します。

delete permissions *module port*

構文の説明	<i>module</i>	ISM または SM。
	<i>port</i>	ISM または SM のスロット/ポート。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード ユーザ *username* (/user/*username*)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、指定したモジュールおよびポートを設定するユーザの権限を削除します。

例 次に、myuser ユーザの権限を削除する例を示します。

```
router /user # scope username myuser
router /user/username myuser # delete permissions SM 1/0
Permission successfully deleted.
```

show all

すべてのユーザのユーザ名を表示するには、ユーザ モードで **show all** コマンドを使用します。

show all

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ユーザ (/user)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、CIMC-E で定義されたすべてのユーザのユーザ名を表示します。

例

次に、CIMC-E で定義されたユーザ名を表示する例を示します。

```
router /user # show all
```

```
admin  
myuser
```


show username

特定のユーザに関する情報を表示するには、ユーザ モードで **show username** コマンドを使用します。

show username *username*

構文の説明	<i>username</i>	情報を表示するユーザ名。
--------------	-----------------	--------------

コマンド デフォルト	なし
-------------------	----

コマンド モード	ユーザ (/user)
-----------------	-------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	このコマンドを使用して、ユーザが属しているグループ、およびユーザが持つ権限を表示します。
-------------------	--

例	次に、myuser ユーザの情報を表示する例を示します。
----------	------------------------------

```
cimce/user # show username myuser
```

```
User Name:      myuser
Group(s):       cimce users
CIMCE Privileges: CIMC-E User
```

show permissions

ユーザの権限を表示するには、ユーザ *username* モードで **show permissions** コマンドを使用します。

show permissions

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ユーザ *username* (/user/*username*)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、ユーザが設定を行う権限を持つモジュールおよびポートを表示します。

例

次に、*myuser* ユーザの権限を表示する例を示します。

```
router /user # scope username myuser
router /user/username myuser # show permissions
sm1/0
```

scope cimce

cimce モードを開始するには、**scope cimce** コマンドを使用します。

scope cimce

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

Cimce (/cimce)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

cimce モードは、CIMC-E プロパティの設定、システム情報の表示、コンソールでのコマンドの入力に使用します。

例

次に、cimce モードを開始する例を示します。

```
Router# scope cimce  
router /cimce #
```

set url

CIMC-E と通信を行うルータの URL を設定するには、**cimce** モードで **set url** コマンドを使用します。

set url url

構文の説明

url ルータの URL。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Cimce (/cimce)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

CIMC-E とルータ間の通信をイネーブルにするには、次を設定する必要があります。

- ルータの URL
- ユーザ名
- パスワード

このコマンドを使用して、ルータの URL を設定します。ユーザ名を設定するには、**set username** コマンドを使用します。パスワードを設定するには、**set password** コマンドを使用します。

変更を保存するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。

例

次に、ルータの URL を 172.168.24.52 に設定し、以前に作成したユーザ名とパスワードを表示する例を示します。

```
router /cimce # set url 172.168.24.52/test
router /cimce *# commit
Username:      myuser
Password:     <hidden>
End Point:    172.168.24.52/test
New config changes have been saved
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	設定変更を保存します。
set password	CIMC-E がルータとの通信に使用するパスワードを設定します。
set username	CIMC-E がルータとの通信に使用するユーザ名を設定します。

set username

CIMC-E がルータとの通信に使用するユーザ名を設定するには、`cimce` モードで **set username** コマンドを使用します。

set username *username*

構文の説明

<i>username</i>	CIMC-E がルータとの通信に使用するユーザ名。
-----------------	---------------------------

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

Cimce (/cimce)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

CIMC-E とルータ間の通信をイネーブルにするには、次を設定する必要があります。

- ルータの URL
- ユーザ名
- パスワード

このコマンドを使用して、ユーザ名を設定します。パスワードを設定するには、**set password** コマンドを使用します。ルータの URL を設定するには、**set url** コマンドを使用します。

変更を保存するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。

例

次に、CIMC-E がルータとの通信に使用するユーザ名を設定する例を示します。

```
router /cimce # set username myuser
router /cimce *# commit
Username:      myuser
Password:     <hidden>
End Point:    172.168.24.52/test
New config changes have been saved
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	設定変更を保存します。
set password	CIMC-E がルータとの通信に使用するパスワードを設定します。
set url	CIMC-E と通信を行うルータの URL を設定します。

set password

CIMC-E がルータとの通信に使用するパスワードを設定するには、Cimce モードで **set password** コマンドを使用します。

set password *password*

構文の説明	<i>password</i>	CIMC-E がルータとの通信に使用するパスワード。
-------	-----------------	----------------------------

コマンド デフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	Cimce (/cimce)
----------	----------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン CIMC-E とルータ間の通信をイネーブルにするには、次を設定する必要があります。

- ルータの URL
- ユーザ名
- パスワード

このコマンドを使用して、パスワードを設定します。ユーザ名を設定するには、**set username** コマンドを使用します。ルータの URL を設定するには、**set url** コマンドを使用します。

変更を保存するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。

例 次に、CIMC-E がルータとの通信に使用するパスワードを設定する例を示します。

```
router /cimce # set password mypassword
router /cimce *# commit
Username:      myuser
Password:      <hidden>
End Point:     172.168.24.52/test
New config changes have been saved
```

関連コマンド	コマンド	説明
	commit	設定変更を保存します。
	set url	CIMC-E と通信を行うルータの URL を設定します。
	set username	CIMC-E がルータとの通信に使用するユーザ名を設定します。

set sshport

CIMC-E と通信を行うルータの SSH ポートを設定するには、Cimce モードで **set sshport** コマンドを使用します。

```
set sshport ssh-port
```

構文の説明	<i>ssh-port</i>	SSH 通信のポート番号。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	Cimce (/cimce)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.0	このコマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	CIMC-E CLI インターフェイスへのログインに使用される SSH ポートです。変更を保存するには、 commit コマンドを入力する必要があります。	
例	次に、SSH ポートを 2222 に設定する例を示します。 <pre>router /cimce # set sshport 2222 router /cimce *# commit</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	commit	設定変更を保存します。

show config

ルータの CIMC-E 設定を表示するには、`cimce` モードで **show config** コマンドを使用します。

show config

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

Cimce (/cimce)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、ルータの CIMC-E 通信用に設定されたユーザ名、パスワード、および URL を表示します。

例

次に、CIMC-E 設定を表示する例を示します。

```
router /cimce # show config

Username:      myuser
Password:      <hidden>
End Point:     172.168.24.52/test
Last Modified: Mon May 17 11:10:11 EDT 2010
```


show logs

CIMC-E ログファイルに関する情報を表示するには、**cimce** モードで **show logs** コマンドを使用します。

show logs

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

Cimce (/cimce)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、すべての CIMC-E ログファイル名を表示します。特定のログファイルの内容を表示するには、**show log** コマンドを使用します。

例

次に、CIMC-E ログを表示する例を示します。

```
router /cimce # show logs
SIZE                LAST_MODIFIED_TIME                NAME
17844 Tue May 04 17:39:15 America/New_York 2010 lighttpd_access.log
742613 Mon May 17 10:58:24 America/New_York 2010 messages.log
18882 Mon May 17 10:42:19 America/New_York 2010 lighttpd_error.log
```

関連コマンド

コマンド	説明
show log	設定変更を保存します。

show log (cimce)

特定の CIMC-E ログ ファイルの内容を表示するには、**cimce** モードで **show log** コマンドを使用します。

show log *logname*

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

Cimce (/cimce)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、特定のログ ファイルの内容を表示します。すべての CIMC-E ログ ファイル名を表示するには、**show logs** コマンドを使用します。

例

次に、`lighttpd_error.log` ファイルの内容を表示する例を示します。

```
router /cimce # show log lighttpd_error.log

2010-04-28 20:38:11:
(/local/source/lineups/bender/opensource/lighttpd-1.4.26/src/log.c.166) server started
2010-05-02 02:52:31:
(/local/source/lineups/bender/opensource/lighttpd-1.4.26/src/log.c.166) server started
2010-05-03 19:43:17:
(/local/source/lineups/bender/opensource/lighttpd-1.4.26/src/server.c.1503) server stopped
by UID = 0 PID = 7413
2010-05-04 21:37:14:
(/local/source/lineups/bender2/opensource/lighttpd-1.4.26/src/log.c.166) server started
2010-05-06 03:59:32:
(/local/source/lineups/bender2/opensource/lighttpd-1.4.26/src/log.c.166) server started
2010-05-07 17:55:04:
(/local/source/lineups/bender2/opensource/lighttpd-1.4.26/src/server.c.1503) server
stopped by UID = 0 PID = 6822
2010-05-07 17:56:13:
(/local/source/lineups/bender/opensource/lighttpd-1.4.26/src/log.c.166) server started
2010-05-07 14:26:31:
(/local/source/lineups/bender/opensource/lighttpd-1.4.26/src/log.c.166) server started
2010-05-09 05:33:32:
(/local/source/lineups/bender/opensource/lighttpd-1.4.26/src/log.c.166) server started
2010-05-10 14:24:33:
(/local/source/lineups/bender/opensource/lighttpd-1.4.26/src/server.c.1503) server stopped
by UID = 0 PID = 6212
2010-05-10 14:25:18:
(/local/source/lineups/bender2/opensource/lighttpd-1.4.26/src/log.c.166) server started
2010-05-10 20:07:31:
(/local/source/lineups/bender2/opensource/lighttpd-1.4.26/src/log.c.166) server started
2010-05-10 20:21:32:
(/local/source/lineups/bender2/opensource/lighttpd-1.4.26/src/log.c.166) server started
```

```
2010-05-10 20:34:32:  
(/local/source/lineups/bender2/opensource/lighttpd-1.4.26/src/log.c.166) server started
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logs	CIMC-E ログ ファイルに関する情報を表示します。

show sshport

CIMC-E 通信に使用する SSH ポートを表示するには、`cimce` モードで **show sshport** コマンドを使用します。

show sshport

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

Cimce (/cimce)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、**set sshport** コマンドで設定された SSH ポートを表示します。

例

次に、`lighttpd_error.log` ファイルの内容を表示する例を示します。

```
router /cimce # show sshport
Port: 2222
```

関連コマンド

コマンド	説明
set sshport	CIMC-E と通信を行う SSH ポートを設定します。

tail

指定したログ ファイルの指定した行数を表示するには、**cimce** モードで **tail** コマンドを使用します。

tail *logname number-of-lines*

構文の説明	<i>logname</i>	表示するログ ファイル。
	<i>number-of-lines</i>	表示する行数。

コマンドデフォルト なし

コマンドモード Cimce (/cimce)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.0	このコマンドが追加されました。

例 次に、**messages.log** ファイルの最後の 5 行を表示する例を示します。

```
router /cimce # tail messages.log 5

<195>May 17 11:11:16 localhost ntpd[1375]: ERROR ntp ntp ntp Error lookup
/sw/proto/ntp/stat/1 failed
<195>May 17 11:15:32 localhost ntpd[1375]: ERROR ntp ntp ntp Error lookup
/sw/proto/ntp/stat/refserver11 failed
<195>May 17 11:15:32 localhost ntpd[1375]: ERROR ntp ntp ntp Error lookup
/sw/proto/ntp/stat/1 failed
<195>May 17 11:15:32 localhost ntpd[1375]: ERROR ntp ntp ntp Error lookup
/sw/proto/ntp/stat/refserver11 failed
<195>May 17 11:15:32 localhost ntpd[1375]: ERROR ntp ntp ntp Error lookup
/sw/proto/ntp/stat/1 failed
```

scope http

http モードを開始するには、cimce モードで **scope http** コマンドを使用します。

scope http

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Http (/cimce/http)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

HTTP サービスを設定するには、http モードを使用します。

例

次に、http モードを開始する例を示します。

```
router /cimce # scope http
router /cimce/http #
```

set port

CIMC-E と通信を行う HTTP ポートを設定するには、http モードで **set port** コマンドを使用します。

set port *port*

構文の説明	<i>port</i>	SSH 通信のポート番号。
-------	-------------	---------------

コマンドデフォルト	なし
-----------	----

コマンドモード	Http (/cimce/http)
---------	--------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	CIMC-E GUI インターフェイスにログインするときに使用する HTTP/S ポートです。 変更を保存するには、 commit コマンドを入力する必要があります。
------------	---

例	次に、ポートを 8080 に設定する例を示します。 <pre>router /cimce/http # set port 8080 router /cimce/http *# commit Configuring HTTP service port Port is set to: 8080 Please restart the HTTP server to apply the new change</pre>
---	---

関連コマンド	コマンド	説明
	commit	設定変更を保存します。

set ssl enable

CIMC-E の HTTP SSL サービスをイネーブルにするには、http モードで **set ssl enable** コマンドを使用します。

set ssl enable

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Http (/cimce/http)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

変更を保存するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。

例

次に、SSL をイネーブルにする例を示します。

```
router /cimce/http # set ssl enable
router /cimce/http *# commit
Configuring HTTP SSL service
SSL is set to: enable
Please restart the HTTP server to apply the new change
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	設定変更を保存します。

set ssl disable

CIMC-E の HTTP SSL サービスをディセーブルにするには、http モードで **set ssl disable** コマンドを使用します。

set ssl disable

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

Http (/cimce/http)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

変更を保存するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。

例

次に、SSL をディセーブルにする例を示します。

```
router /cimce/http # set ssl disable
router /cimce/http *# commit
Configuring HTTP SSL service
SSL is set to: disable
Please restart the HTTP server to apply the new change
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	設定変更を保存します。

set cert default

CIMC-E のデフォルトのシスコ サーバ証明書を使用するには、http モードで **set cert default** コマンドを使用します。

set cert default

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Http (/cimce/http)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

変更を保存するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。

例

次に、デフォルトのシスコ サーバ証明書を使用するためにルータを設定する例を示します。

```
router /cimce/http # set cert default
router /cimce/http *# commit
Configuring HTTP Certificate
Certificate set to factory default.
Please restart the HTTP server for
changes to take effect.
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	設定変更を保存します。

show port

CIMC-E 通信に使用する HTTP ポートを表示するには、http モードで **show port** コマンドを使用します。

show port

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

Http (/cimce/http)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、**set port** コマンドで設定した HTTP ポートを表示します。

例

次に、HTTP ポートを表示する例を示します。

```
router /cimce/http # show port
Current Port:      8080
```

関連コマンド

コマンド	説明
set port	CIMC-E と通信を行う HTTP ポートを設定します。

show ssl

HTTP SSL サービス ステータスを表示するには、http モードで **show ssl** コマンドを使用します。

show ssl

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

Http (/cimce/http)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、**set ssl enable** コマンドまたは **set ssl disable** コマンドで設定された SSL ステータスを表示します。

例

次に、SSL がディセーブルの例を示します。

```
router /cimce/http # show ssl
Current SSL Status:    "disable"
```

関連コマンド

コマンド	説明
set ssl disable	CIMC-E の HTTP SSL サービスをディセーブルにします。
set ssl enable	CIMC-E の HTTP SSL サービスをイネーブルにします。

show status (cimce/http)

HTTP サービス ステータスを表示するには、http モードで **show status** コマンドを使用します。

show status

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

Http (/cimce/http)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、HTTP サービス ステータスを表示します。

例

次に、HTTP サービスを実行している例を示します。

```
router /cimce/http # show status
HTTP Service is currently running
```

関連コマンド

コマンド	説明
set ssl disable	CIMC-E の HTTP SSL サービスをディセーブルにします。
set ssl enable	CIMC-E の HTTP SSL サービスをイネーブルにします。

shutdown (cimce/http)

CIMC-E の HTTP サービスを正常にシャットダウンするには、`http` モードで **shutdown** コマンドを使用します。

shutdown

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

Http (/cimce/http)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

例

次に、CIMC-E の HTTP サービスを正常にシャットダウンする例を示します。

```
router /cimce/http # shutdown
Shutting down HTTP service
HTTP service has been shutdown
```

関連コマンド

コマンド	説明
restart	CIMC-E の HTTP サービスを再起動します。

start (cimce/http)

CIMC-E の HTTP サービスを起動するには、http モードで **start** コマンドを使用します。

start

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

Http (/cimce/http)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

例

次に、CIMC-E の HTTP サービスを起動する例を示します。

```
router /cimce/http # start
```

関連コマンド

コマンド	説明
restart	CIMC-E の HTTP サービスを再起動します。

restart (cimce/http)

CIMC-E の HTTP サービスを再起動するには、http モードで **restart** コマンドを使用します。

restart

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

Http (/cimce/http)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

shutdown (cimce/http) コマンドを使用して HTTP サービスをシャットダウンした後に、このコマンドを使用してサービスを再起動します。

例

次に、CIMC-E の HTTP サービスを再起動する例を示します。

```
router /cimce/http # restart
```

関連コマンド

コマンド	説明
shutdown	CIMC-E の HTTP サービスを正常にシャットダウンします

upload cert url

サーバから CIMC-E のサーバ証明書をアップロードするには、http モードで **upload cert url** コマンドを使用します。

upload cert url *url*

構文の説明

url FTP サーバまたは HTTP サーバの URL。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

Http (/cimce/http)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

証明書ファイルは、FTP サーバまたは HTTP サーバ上に存在する必要があります。**restart** コマンドを使用して、HTTP サーバを再起動し、変更を有効にします。

例

次に、FTP サーバから証明書をアップロードする例を示します。

```
router /cimce/http # upload cert url ftp://192.1.1.60/pub/good.pem
Certificate uploaded successfully.
Please restart the HTTP server for changes
to take effect.
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	設定変更を保存します。
restart (cimce/http)	CIMC-E の HTTP サービスを再起動します。

scope syslog (cimce)

syslog モードを開始するには、cimce モードで **scope syslog** コマンドを使用します。

scope syslog

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Syslog (/cimce/syslog)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

syslog サービスを設定するには、syslog モードを使用します。

例

次に、syslog モードを開始する例を示します。

```
router /cimce # scope syslog
router /cimce/syslog #
```

set server

CIMC-E の syslog サーバを設定するには、syslog モードで **set server** コマンドを使用します。

set server server

構文の説明	<i>server</i> syslog サーバの URL。
-------	--------------------------------

コマンドデフォルト	なし
-----------	----

コマンドモード	Syslog (/cimce/syslog)
---------	------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	変更を保存するには、 commit コマンドを入力する必要があります。
------------	--

例	次に、syslog サーバを 192.1.1.60 に設定する例を示します。
---	--

```
router /cimce/syslog # set server 192.1.1.60
router /cimce/syslog *# commit
The operation completed successfully.
```

関連コマンド	コマンド	説明
	commit	設定変更を保存します。

set syslog disable

CIMC-E の syslog をディセーブルにするには、syslog モードで **set syslog disable** コマンドを使用します。

set syslog disable

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

Syslog (/cimce/syslog)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

変更を保存するには、**commit** コマンドを入力する必要があります。

例

次に、syslog をディセーブルにする例を示します。

```
router /cimce/syslog # set syslog disable
router /cimce/syslog *# commit
Syslog disabled successfully.
```

関連コマンド

コマンド	説明
commit	設定変更を保存します。

show server (cimce/syslog)

CIMC-E の syslog サーバの URL を表示するには、syslog モードで **show server** コマンドを使用します。

show server

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

Syslog (/cimce/syslog)

コマンド履歴

リリース	変更内容
1.0	このコマンドが追加されました。

例

次に、CIMC-E の syslog サーバの URL を表示する例を示します。

```
router /cimce/syslog # show server  
Log server address: 192.1.1.60
```

Embedded Service Engine コマンド リファレンス

このコマンドリファレンスでは、Embedded Service Engine 用のコマンドについて説明します。

次のコンフィギュレーション コマンドは、新しいコマンドです。

- **service-module enable**

次の EXEC コマンドは、新しいコマンドです。

- **interface embedded-service-engine 0/0**
- **service-module embedded-service-engine 0/0 install**
- **service-module embedded-service-engine 0/0 password-reset**
- **service-module embedded-service-engine 0/0 reload**
- **service-module embedded-service-engine 0/0 reset**
- **service-module embedded-service-engine 0/0 session**
- **service-module embedded-service-engine 0/0 shutdown**
- **service-module embedded-service-engine 0/0 statistics**
- **service-module embedded-service-engine 0/0 status**
- **show interface embedded-service-engine 0/0**

この機能で使用されるその他のコマンド情報については、「*Cisco IOS Interface and Hardware Component Command Reference*」

(http://www.cisco.com/en/US/docs/ios/interface/command/reference/ir_book.html) を参照してください。

すべての Cisco IOS コマンドについては、<http://tools.cisco.com/Support/CLILookup> で Command Lookup Tool を使用するか、http://www.cisco.com/en/US/docs/ios/mcl/allreleasemcl/all_book.html にある *Cisco IOS Master Command List, All Releases* を使用してください。

service-module enable

サービス モジュール インターフェイスで **Embedded Service Engine** をイネーブルにしてハードウェア リソースをパーティション化するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **service-module enable** コマンドを使用します。Embedded Service Engine をディセーブルにしてハードウェア リソースを最初のコアに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

service-module enable

no service-module enable

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

Embedded Service Engine はイネーブルになっていません。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.1(4)M	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

Cisco Integrated Services Routers Generation 2 (Cisco ISRs G2) では、マザーボードにデュアル コア CPU を搭載しています。最初のコアは、Cisco IOS ソフトウェアを実行します。2 番目のコアである *Embedded Service Engine* は、Linux ベースのアプリケーションを実行できます。このコマンドを使用して、Embedded Service Engine をイネーブルにして、最初のコアと Embedded Service Engine 間でハードウェア リソースをパーティション化できるようにします。Embedded Service Engine をイネーブルにするには、次の手順を実行する必要があります。

1. **embedded-service-engine 0/0** インターフェイスで、コンフィギュレーション コマンド **service-module enable** を入力します。
2. 設定を NVRAM に保存します。
3. システムを再起動します。

Embedded Service Engine にアプリケーションをインストールする前に、システムを再起動する必要があります。

Embedded Service Engine をディセーブルにするには、次の手順を実行する必要があります。

1. **embedded-service-engine 0/0** インターフェイス下で、コンフィギュレーション **no service-module enable** を、入力します。
2. 設定を NVRAM に保存します。
3. システムを再起動します。

システムが再起動した後、ハードウェア リソースは最初のコアに戻ります。

例

次に、Embedded Service Engine をイネーブルにする例を示します。

```
interface Embedded-Service-Engine0/0
  ip address 10.10.10.1 255.255.0.0
  service-module enable
  service-module ip address 10.10.10.2 255.255.0.0
  service-module ip default-gateway 10.10.10.1
```

次に、Embedded Service Engine をディセーブルにする例を示します。

```
interface Embedded-Service-Engine0/0
  no service-module enable
```


interface embedded-service-engine 0/0

Embedded Service Engine に接続するルータのインターフェイスを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **interface embedded-service-engine 0/0** コマンドを使用します。このコマンドには、no 形式はありません。

interface embedded-service-engine 0/0

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

インターフェイスが設定されていません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.1(4)M	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを実行すると、ルータと Embedded Service Engine 間のインターフェイスを設定するインターフェイス コンフィギュレーション モードが開始されます。

例

次に、Embedded Service Engine のインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
Router(config)# interface embedded-service-engine 0/0
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip unnumbered	明示的な IP アドレスをインターフェイスに割り当てずにインターフェイス上の IP 処理をイネーブルにします。
service-module ip address	インターフェイスのモジュール側の IP アドレスを指定します。
show interface embedded-service-engine 0/0	Embedded Service Engine インターフェイスのステータス、トラフィック データ、および設定情報を表示します。

service-module embedded-service-engine 0/0 install

Cisco SRE を使用してサービス モジュール (Cisco SM-SRE) にアプリケーションをインストールするには、特権 EXEC コンフィギュレーション モードで **service-module embedded-service-engine 0/0 install** コマンドを使用します。

service-module embedded-service-engine 0/0 install url *url* [*script filename*] [*argument "string"*] [*force*]

構文の説明

url <i>url</i>	RFC 2396 の定義に従って、アプリケーション パッケージおよび Tcl スクリプトが存在する FTP サーバまたは HTTP サーバのアドレス。
script	(任意) 実行する Tcl スクリプトの名前を、デフォルト値から <i>filename</i> 引数で指定されたスクリプトに変更します。
filename	Tcl スクリプトの名前。
argument	(任意) インストーラは、 <i>string</i> 引数で指定された変数のオプションを表示しません。
string	コマンドラインを介して Tcl スクリプトに直接渡される変数の英数字。変数は引用符 (" ") で囲む必要があります。
force	(オプション) Tcl スクリプトは、ユーザ入力を求めるプロンプトを表示せずに、インストールを自動的に実行します。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.1(4)M	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、Cisco SRE の共通のモジュール依存ブートローダを使用して、Cisco Unity Express や Cisco AXP などの Linux ベースのアプリケーションをサービス モジュール (Cisco SM-SRE) にインストールします。

slot 引数と *port* 引数の間には、スラッシュ記号 (/) が必要です。

ルータ上で、このコマンドのインスタンスを一度に 1 つだけ発行できます。このコマンドを使用して、アプリケーションを同時に同じルータ上で複数のサービス エンジン モジュールにインストールすることはできません。

実行される Tcl スクリプトは、インストールされるアプリケーション パッケージと同じ FTP サーバまたは HTTP サーバおよびディレクトリに存在する必要があります。クレデンシャルが必要な場合は、次の例に示すように、ユーザ名とパスワードを URL に組み込む必要があります。

```
Router# service-module embedded-service-engine 0/0 install url
ftp://username:passwd@server.com/axp
```

このコマンドで2つ以上の任意のキーワード/引数の組み合わせが使用される場合は、それらをコマンド構文で示されている順序で発行する必要があります。たとえば、このコマンドを発行するときに、**force** キーワードを **script** キーワードまたは **argument** キーワードの前に使用したり、**argument** キーワードを **script** キーワードの前に使用したりすることはできません。

インストール中に Cisco IOS ソフトウェアがデフォルトのインストーラ以外の Tcl スクリプトを使用するように指定するには、このコマンドで **script filename** キーワード/引数の組み合わせを使用します。

インストールプロセス中に手動で変数を提供し、インストーラのユーザ対話機能をバイパスするには、このコマンドで **argument "string"** キーワード/引数の組み合わせを使用します。変数には、左右に引用符 (" ") を含める必要があります。

ユーザ入力を求めるプロンプトを表示せずにアプリケーションをインストールするには、このコマンドで **force** キーワードを使用します。このキーワードを使用する場合、インストール中に特定の変数を必要とするアプリケーションであれば、**argument "string"** キーワード/引数の組み合わせも使用して、必要な変数を手動で指定する必要があります。**force** キーワードを使用すると、インストーラでのインストール中のすべてのユーザ入力はバイパスされるためです。

Tcl スクリプトのダウンロード中にインストールを停止するには、**service-module sm install abort** コマンドを使用します。実際にインストールが開始すると、このコマンドは使用できません。

例

次に、このコマンドを使用して、デフォルトのインストール Tcl スクリプトではなく「help.sre」Tcl スクリプトを実行する例を示します。

```
Router# service-module embedded-service-engine 0/0 install url ftp://server.com/cimce
script help.sre argument arg1
Router#
```

次に、Cisco SRE を使用してインストールが正常に実行されている場合に、モジュール コンソールに表示されるメッセージの例を示します。

```
Feb 6 19:09:22.526 EDT: %SM_INSTALL-6-INST_PROG: Service-Module-SM 1/0 PROGRESSING:
Validating package signature ...1 .
Feb 6 19:09:23.058 EDT: %SM_INSTALL-6-INST_PROG: Service-Module-SM 1/0 PROGRESSING:
Parsing package manifest files ...1 .
Feb 6 19:09:44.742 EDT: %SM_INSTALL-6-INST_PROG: Service-Module-SM 1/0 PROGRESSING:
Starting payload download1 .
Feb 6 19:09:52.022 EDT: %SM_INSTALL-6-INST_PROG: Service-Module-SM 1/0 PROGRESSING:
Performing Hot install ...1 .
Install successful on Service-Module-SM 1/0 Feb 6 19:10:28.826 EDT:
%SM_INSTALL-6-INST_SUCC: Service-Module-SM 1/0 SUCCESS: install-completed .
```

関連コマンド

コマンド	説明
service-module embedded-service-engine 0/0 install abort	インストールを停止し、ブートローダ プロンプトに戻ります。

service-module embedded-service-engine 0/0 password-reset

Embedded Service Engine のパスワードをリセットするには、特権 EXEC モードで **service-module embedded-service-engine password-reset** コマンドを使用します。

service-module embedded-service-engine 0/0 password-reset

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.1(4)M	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、Embedded Service Engine パスワードをリセットするのに使用します。これにより、パスワードなしで Embedded Service Engine のセッションを開始できます。

例

次に、Embedded Service Engine のパスワードをリセットする例を示します。パスワードのリセット後は、セッションを開始するときにパスワードを要求されなくなります。

```
Router# service-module embedded-service-engine 0/0 password-reset
Router# service-module embedded-service-engine 0/0 session

Trying 10.86.25.94, 2002 ... Open

CORE2-VSEP#
```

関連コマンド

コマンド	説明
service-module embedded-service-engine 0/0 session	コンソール接続を使用して、Embedded Service Engine サービスモジュールのコンフィギュレーションセッションを開始します。

service-module embedded-service-engine 0/0 reload

Embedded Service Engine の正常なシャットダウンおよび再起動を実行するには、特権 EXEC モードで **service-module embedded-service-engine 0/0 reload** を使用します。

service-module embedded-service-engine 0/0 reload

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.1(4)M	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

確認プロンプトで、**Enter** キーを押して操作を確認するか、**n** と入力してキャンセルします。

例

次に、オペレーティング システムを通常にシャットダウンおよび再起動する例を示します。

```
Router# service-module embedded-service-engine 0/0 reload
Do you want to proceed with reload?[confirm]
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface embedded-service-engine 0/0	Embedded Service Engine に接続し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するルータのインターフェイスを設定します。
service-module embedded-service-engine 0/0 reset	サービス モジュール ハードウェアをリセットします。
service-module embedded-service-engine 0/0 shutdown	サービス モジュールを正常にシャットダウンします。
show diag	サービス モジュールのコントローラ情報を表示します。
show interfaces embedded-service-engine 0/0	Embedded Service Engine の基本的なインターフェイス設定情報を表示します。

service-module embedded-service-engine 0/0 reset

Embedded Service Engine サービス モジュールのハードウェアをリセットするには、特権 EXEC モードで **service-module embedded-service-engine 0/0 reset** コマンドを使用します。

service-module embedded-service-engine 0/0 reset

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.1(4)M	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

確認プロンプトで、**Enter** キーを押して操作を確認するか、**n** と入力してキャンセルします。



注意

データを消失する可能性があるため、**service-module embedded-service-engine 0/0 reset** コマンドは、シャットダウンまたは障害状態から回復する目的に限り使用してください。

例

次に、サービス モジュール ハードウェアをリセットする例を示します。

```
Router# service-module embedded-service-engine 0/0 reset
```

```
Use reset only to recover from shutdown or failed state
Warning: May lose data on the NVRAM, nonvolatile file system or unsaved configuration!
Do you want to reset?[confirm]
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface embedded-service-engine 0/0	Embedded Service Engine に接続し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するルータのインターフェイスを設定します。
service-module embedded-service-engine 0/0 reload	サービス モジュール オペレーティング システムの正常なシャットダウンおよび再起動を実行します。
service-module sm embedded-service-engine 0/0 shutdown	サービス モジュールを正常にシャットダウンします。
show diag	サービス モジュールのコントローラ情報を表示します。
show interface embedded-service-engine 0/0	サービス モジュールの基本的なインターフェイス設定情報を表示します。

service-module embedded-service-engine 0/0 session

コンソール接続を使用して Embedded Service Engine サービス モジュールのコンフィギュレーションセッションを開始するには、特権 EXEC モードで **service-module embedded-service-engine 0/0 session** コマンドを使用します。

service-module embedded-service-engine 0/0 session [clear]

構文の説明

clear	(任意) サービス モジュール コンフィギュレーション セッションをクリアします。
--------------	---

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.1(4)M	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

サービス モジュール インターフェイスからサービス モジュールに許可されるのは、一度に 1 セッションのみです。

セッションを開始した後、任意のサービス モジュール設定作業を実行できます。まず、ユーザ レベル シェルでサービス モジュール コンソールにアクセスします。ほとんどのコマンドを使用できる特権 EXEC コマンド シェルにアクセスするには、**enable** コマンドを使用します。

設定作業を完了してサービス モジュール コンソール セッションを終了した後、**clear** キーワードを指定してこのコマンドを使用してセッションをクリアします。確認プロンプトで、**Enter** キーを押して操作を確認するか、**n** と入力してキャンセルします。

例

次に、Embedded Service Engine 用に開かれているセッションの例を示します。

```
Router# service-module embedded-service-engine 0/0 session
```

```
Trying 10.10.10.1, 2129 ... Open
```

```
SE-Module con now available
Press RETURN to get started!
```

```
SE-Module> enable
```

次に、スロット 1 の Embedded Service Engine の設定に使用されていたセッションをクリアする例を示します。

```
Router# service-module embedded-service-engine 0/0 session clear
[confirm]
[OK]
```

関連コマンド

コマンド	説明
enable	特権 EXEC モードを開始します。
interface	インターフェイスを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
show diag	サービス モジュールのコントローラ情報を表示します。
show interface embedded-service-engine 0/0	サービス モジュールの基本的なインターフェイス設定情報を表示します。

service-module embedded-service-engine 0/0 shutdown

Embedded Service Engine サービス モジュールを正常にシャットダウンするには、特権 EXEC モードで **service-module embedded-service-engine 0/0 shutdown** コマンドを使用します。

service-module embedded-service-engine 0/0 shutdown

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.1(4)M	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

確認プロンプトで、**Enter** キーを押して操作を確認するか、**n** と入力してキャンセルします。

このコマンドは、ハード ドライブを保護するために、指定したサービス モジュールのオペレーティング システムを正しい方法で停止します。システムをシャットダウンすると、モジュールをルータから削除できます。

例

次に、サービス モジュールを正常にシャットダウンする例を示します。

```
Router# service-module embedded-service-engine 0/0 shutdown
```

```
Do you want to proceed with shutdown?[confirm]
Use service module reset command to recover from shutdown.
```

```
WARNING: Confirm that the service-module status shows 'is Shutdown' before removing the
module or powering off the system !
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface embedded-service-engine 0/0	Embedded Service Engine に接続し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するルータのインターフェイスを設定します。
service-module embedded-service-engine 0/0 reload	Embedded Service Engine オペレーティング システムの正常なシャットダウンおよび再起動を実行します。
service-module embedded-service-engine 0/0 reset	Embedded Service Engine のハードウェアをリセットします。

コマンド	説明
show diag	サービス モジュールのコントローラ情報を表示します。
show interface embedded-service-engine 0/0	Embedded Service Engine の基本的なインターフェイス設定情報を表示します。

service-module embedded-service-engine 0/0 statistics

Embedded Service Engine サービス モジュールとその Cisco IOS ソフトウェアのリセット情報およびリロード情報を表示するには、EXEC モードで **service-module embedded-service-engine 0/0 statistics** コマンドを使用します。

service-module embedded-service-engine 0/0 statistics

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

ユーザ EXEC (>)
特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.1(4)M	このコマンドが追加されました。

例

次に、スロット 1 のサービス モジュールの情報を表示する例を示します。

```
Router# service-module embedded-service-engine 0/0 statistics
```

```
Module Reset Statistics:
  CLI reset count = 0
  CLI reload count = 0
  Registration request timeout reset count = 1
  Error recovery timeout reset count = 1
  Module registration count = 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface embedded-service-engine 0/0	Embedded Service Engine に接続し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するルータのインターフェイスを設定します。
service-module embedded-service-engine 0/0 reload	Embedded Service Engine オペレーティング システムの正常なシャットダウンおよび再起動を実行します。
service-module embedded-service-engine 0/0 reset	Embedded Service Engine ハードウェアをリセットします。
service-module embedded-service-engine 0/0 shutdown	Embedded Service Engine を正常にシャットダウンします。
show interface embedded-service-engine 0/0	Embedded Service Engine の基本的なインターフェイス設定情報を表示します。

service-module embedded-service-engine 0/0 status

Embedded Service Engine サービス モジュールのハードウェアおよびソフトウェアに関する設定情報を表示するには、特権 EXEC モードで **service-module embedded-service-engine 0/0 status** コマンドを使用します。

service-module embedded-service-engine 0/0 status

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.1(4)M	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、次を実行します。

- Embedded Service Engine のソフトウェア リリース バージョンの表示
- Embedded Service Engine ステータスの確認（定常またはダウン）
- CPU、メモリ、インターフェイス情報などを含めて、Embedded Service Engine のハードウェア情報の表示

例

次に、Embedded Service Engine の情報の例を示します。

```
Router# service-module embedded-service-engine 0/0 status
```

```
Service Module is Cisco Embedded-Service-Engine0/0
Service Module supports session via TTY line 2
Service Module is in Steady state
Service Module heartbeat-reset is enabled
Getting status from the Service Module, please wait..
```

```
Cisco CIMC-E Software 1.0
CIMCE Running on VSEM
Embedded Service Engine boot state is KERNEL UP
```

```
Module resource information:
CPU Frequency: 500 MHz
Memory Size: 256 MB
Disk Size: 488 MB
```

```
No install/uninstall in progress
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface embedded-service-engine 0/0	Embedded Service Engine に接続し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するルータのインターフェイスを設定します。
show diag	サービス モジュールのコントローラ情報を表示します。
show interface embedded-service-engine 0/0	Embedded Service Engine の基本的なインターフェイス設定情報を表示します。

show interface embedded-service-engine 0/0

Embedded Service Engine 0/0 インターフェイスに関するステータス、トラフィック データ、および設定情報を表示するには、ユーザ EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show interface embedded-service-engine 0/0** コマンドを使用します。

show interface embedded-service-engine 0/0

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド モード

ユーザ EXEC (>)
特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
15.1(4)M	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、Embedded Service Engine 0/0 インターフェイスのインターフェイス情報を表示します。

例

次に、ルータにインストールされている SM-SRE のインターフェイスに関するステータス、トラフィック データ、および設定情報の例を示します。

```
Router# show interface embedded-service-engine 0/0

Embedded-Service-Engine0/0 is up, line protocol is up
Hardware is Embedded Service Engine, address is 8843.e1b2.eff5 (bia 8843.e1b2.eff5)
Interface is unnumbered. Using address of GigabitEthernet0/0 (10.86.25.94)
MTU 1500 bytes, BW 10000 Kbit/sec, DLY 1000 usec,
    reliability 255/255, txload 1/255, rxload 1/255
Encapsulation ARPA, loopback not set
Keepalive set (10 sec)
ARP type: ARPA, ARP Timeout 04:00:00
Last input 00:00:27, output never, output hang never
Last clearing of "show interface" counters never
Input queue: 0/64/0/0 (size/max/drops/flushes); Total output drops: 4
Queueing strategy: fifo
Output queue: 0/60 (size/max)
 5 minute input rate 0 bits/sec, 0 packets/sec
 5 minute output rate 0 bits/sec, 0 packets/sec
 33420 packets input, 3249092 bytes, 0 no buffer
 Received 53 broadcasts (0 IP multicasts)
 0 runts, 0 giants, 0 throttles
 0 input errors, 0 CRC, 0 frame, 0 overrun, 0 ignored
 0 input packets with dribble condition detected
66908 packets output, 74463378 bytes, 0 underruns
 0 output errors, 0 collisions, 8 interface resets
 0 unknown protocol drops
 0 babbles, 0 late collision, 0 deferred
 0 lost carrier, 0 no carrier
 0 output buffer failures, 0 output buffers swapped out
```

Router#

表 25 に、この出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 25 show interface embedded-service-engine のフィールドの説明

フィールド	説明
Hardware address	ハードウェア タイプとアドレス。
MTU	サービス モジュール インターフェイスの最大伝送ユニット (MTU)。
BW	インターフェイスの帯域幅 (Kbps 単位)。
DLY	インターフェイスの遅延 (マイクロ秒単位)。
reliability	255 を分母とする分数で表したインターフェイスの信頼性 (255/255 は 100% の信頼性)。5 分間の幾何平均から算出されます。
txload	インターフェイスの送信負荷を表す、255 を分母とする分数 (255/255 は完全な飽和状態)。5 分間の幾何平均から算出されています。
rxload	インターフェイスの受信負荷を表す、255 を分母とする分数 (255/255 は完全な飽和状態)。5 分間の幾何平均から算出されています。
Encapsulation	インターフェイスに割り当てられているカプセル化方式。
loopback	ループバックが設定されているかどうかを示します。
Keepalive	キープアライブが設定されているかどうかを示します。また、設定されている場合は、キープアライブ間の間隔を示します。
ARP type	割り当てられているアドレス解決プロトコル (ARP) のタイプ。
ARP Timeout	ARP タイムアウトの長さ。
Last input	インターフェイスによって最後にパケットが正常に受信され、ルータ上でローカルに処理されてから経過した時間、分、秒。このフィールドは、デッド インターフェイスでいつ障害が発生したかを検出する場合に役立ちます。 (注) このフィールドは、ファースト スイッチングされたトラフィックでは更新されません。
output	インターフェイスによって最後にパケットが正常に送信されてから経過した時間、分、秒。このフィールドは、デッド インターフェイスでいつ障害が発生したかを検出する場合に役立ちます。
output hang	送信に時間がかかりすぎたためにインターフェイスが最後にリセットされてから経過した時間、分、秒 (または never)。「last」フィールドの時間数が 24 時間を超える場合、日数および時間数が表示されます。フィールドがオーバーフローすると、アスタリスク (*) が表示されます。

表 25 show interface embedded-service-engine のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Last clearing	このレポートで表示される統計情報 (送受信バイト数など) を累積しているカウンタが前回ゼロにリセットされた時刻。このカウンタをクリアしても、ルーティングに影響する可能性のある変数 (load や reliability など) はクリアされません。 アスタリスク (***) は、経過時間が長すぎて表示できないことを意味します。
Input queue	入力キュー内のパケット数。各数値の後ろに、スラッシュ、キューの最大サイズ、キューが満杯になったためにドロップされたパケット数、およびキューイングされたパケットが破棄された回数が表示されます。
Total output drops	キューが満杯になったためにドロップされた出力キュー内のパケット数。
Queueing strategy	インターフェイスに適用される、インターフェイスで設定可能なキューイング戦略。デフォルトは、先入れ先出し (FIFO) です。
Output queue	出力キュー内のパケット数、およびキューの最大サイズ。各数値の後ろには、スラッシュが表示されます。
5 minute input rate, 5 minute output rate	最後の 5 分間で 1 秒あたりに送信したビットおよびパケットの平均数。インターフェイスが無差別モードでない場合は、(すべてのネットワーク トラフィックではなく) 送受信したネットワーク トラフィックを検知します。 5 分の入力および出力レートは、指定された 5 分間における 1 秒あたりのトラフィック数の概算値だけとして使用してください。これらのレートは、5 分という時間定数を使用して指数の重み付けを適用した平均値です。時間定数の 4 倍の時間が、その期間における均一なトラフィック ストリームの瞬間レートの 2% 以内に平均値が収まるまでに経過していなければなりません。 (注) この出力で参照する 5 分間は、このインターフェイスで設定できる負荷インターバルです。デフォルト値は 5 分です。
packets input	システムが受信したエラーのないパケットの総数。
bytes	システムが受信したエラーのないパケットの合計バイト数 (データおよび MAC (メディア アクセス コントロール) カプセル化など)。

表 25 show interface embedded-service-engine のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
no buffer	メインシステムにバッファ スペースがないためにドロップされた受信パケット数。ignored カウントと比較します。イーサネットのブロードキャストストームおよびシリアル回線のノイズのバーストが、ほとんどの場合 no input buffer イベントの原因になります。
Received...broadcasts	受信したブロードキャスト数。
runts	メディアの最小パケット サイズに満たないためにドロップされたパケット数。たとえば、64 バイトよりも小さいイーサネット パケットはラントと見なされます。
giants	メディアの最大パケット サイズを超過したためにドロップされたパケット数。たとえば、1518 バイトよりも大きいイーサネット パケットはジャイアントと見なされます。
throttles	インターフェイスがルータ内の別のインターフェイスに速度を低下させるよう要求した回数。
input errors	エラーには、ラント、ジャイアント、バッファなし、巡回冗長検査 (CRC)、フレーム、オーバーラン、および無視されたカウントが含まれます。他の入力関連のエラーも、入力エラー カウントが大きくなる場合があります。一部のデータグラムには、複数のエラーがあります。したがって、この合計は、列挙型入力エラー カウントとのバランスが取れない場合があります。
CRC	CRC が発信元の LAN ステーションまたは遠端のデバイスによって生成された場合に作成されたエラーは、受信データから計算したチェックサムと一致しません。LAN の場合は通常、LAN インターフェイスまたは LAN バス自体にノイズまたは伝送上の問題があります。CRC の数値が高いことは、通常、コリジョンの結果であるか、ステーションが不良データを送信することが原因です。
frame	CRC エラーおよび整数以外のオクテット数を含む、不正な受信パケット数。LAN の場合は通常、コリジョンまたはイーサネット デバイスの誤動作が原因です。
overrun	入力速度がレシーバのデータ処理能力を超えたために、レシーバ ハードウェアが受信したデータをハードウェア バッファに格納できなかった回数。
ignored	インターフェイス ハードウェアの内部バッファの容量が少ないために、インターフェイスによって無視された受信パケット数。これらのバッファは、前述のシステム バッファ スペースとは異なります。ブロードキャストストームやノイズのバーストによって、ignored のカウントが増加する場合があります。

表 25 show interface embedded-service-engine のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
input packets with dribble condition detected	ドリブル状態の packets 数。フレームがやや長すぎることを示すドリブルビットエラーです。フレームはスイッチに受け入れられるため、このフレームのエラーカウンタは情報提供の目的で増加します。
packets output	システムで送信されたメッセージの総数。
bytes	データおよび MAC カプセル化など、システムで送信されたバイトの総数。
underruns	ルータの処理能力を超えた速度でトランスミッタが動作した回数。一部のインターフェイスでは、この値が報告されない場合があります。
output errors	検査中のインターフェイスからのデータグラムの最終的な送信を妨害したすべてのエラーの総数。一部のデータグラムには、複数のエラーがある場合があります。また、他のデータグラムには、特に表形式のカテゴリに当てはまらないエラーがある場合があります。これは、列挙型出力エラーの合計とのバランスが取れないことがあります。
collisions	イーサネット コリジョンが発生したために再送信されたメッセージ数。この原因は通常、LAN の過剰な延長 (イーサネット ケーブルまたは トランシーバ ケーブルが長すぎる、ステーション間にリピータが 3 台以上設置されている、またはカスケードされたマルチポート トランシーバが多すぎるなど) です。コリジョンを発生させた packet は、出力 packet 内で 1 回だけカウントされます。
interface resets	インターフェイスが完全にリセットされた回数。インターフェイス リセットは、送信のためにキューイングされた packet が数秒以内に送られなかった場合に発生する可能性があります。シリアル回線では、転送クロック シグナルを供給していない誤動作モデム、あるいは、ケーブル接続の問題でこれが発生する場合があります。シリアル インターフェイスのキャリア検出ラインがアップになっていながら、回線プロトコルがダウンしていることがシステムで検出された場合、システムではインターフェイスを再起動するための対応として間歇的にリセットをかけます。また、インターフェイスがループバックまたはシャットダウンされたときにも、インターフェイスのリセットが発生することがあります。
babbles	送信された 1518 バイトよりも大きいフレームのカウント。これは、トランスミッタが最も大きいフレームの送信に必要な時間よりも長くインターフェイスに留まっていたことを意味します。
late collision	レイト コリジョンの数。コリジョンは、プリアンブルが送信された後に発生した場合にレイト コリジョンとなります。

表 25 show interface embedded-service-engine のフィールドの説明（続き）

フィールド	説明
deferred	フレームが送信可能になっている状態で、キャリアがアサートされたために、チップを遅延しなければならないことを意味しています。
lost carrier	送信中にキャリアが消失した回数。
no carrier	送信中にキャリアが検出されなかった回数。
output buffer failures	失敗したバッファの数。
output buffers swapped out	スワップアウトされたバッファ数。

関連コマンド

コマンド	説明
show controllers embedded-service-engine 0/0	Embedded Service Engine のコントローラ情報を表示します。

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at www.cisco.com/go/trademarks. Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1005R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Copyright © 2011 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

Copyright © 2011–2012, シスコシステムズ合同会社.
All rights reserved.